



SIC Annual Report 2018

(平成30年度事業報告)

令和元年9月30日



株式会社さがみはら産業創造センター
Sagamihara Incubation Center Ltd.

INDEX

1 インキュベーション施設と入居企業

ーラボ・オフィスー

1 SIC-1	p 1. 2
2 SIC-2	p 3. 4
3 SIC-3	p 5. 6
4 Desk ^⑩	p 7
5 SIC 全体	p 8. 9

2 SIC 実施事業

ー経営サポートー

1 企業支援	p 1 0
2 セミナー	p 1 1. 1 2

ー連携・研究開発ー

3 さがみはら表面技術研究所	p 1 3
4 首都圏南西地域連携サポート事業	p 1 4. 1 5. 1 6. 1 7
5 産業用ロボット導入支援事業	p 1 8. 1 9. 2 0

ー人材育成ー

6 SIC 経営塾	p 2 1
7 SIC 職場リーダー養成塾	p 2 2
8 SIC カイゼン・スクール	p 2 3
9 さがみはら子どもアントレプレナー体験事業	p 2 4
1 0 SIC アントレ・インターンシップ	p 2 5
1 1 サガツクナビ (地元企業と学生との出会いをつなぐ)	p 2 6

ー販路開拓ー

1 2 海外販路開拓支援事業 (台湾ビジネスサポート事業)	p 2 7
----------------------------------	-------

3 SIC 会社概要

1 さがみはら産業創造センターの歩み	p 2 8
2 主な事業と開始年度（カテゴリー別）	p 2 9
3 財務状況	p 3 0
4 競争的資金の獲得	p 3 1
5 スタッフ数の変遷	p 3 2
6 支援ネットワーク	p 3 2
7 視察・研修	p 3 3
8 新聞掲載	p 3 4
9 広報紙「かわらばん」の発行	p 3 5
1 0 株主と役員	p 3 6

1-1-1

SIC-1 (インキュベーションセンター)

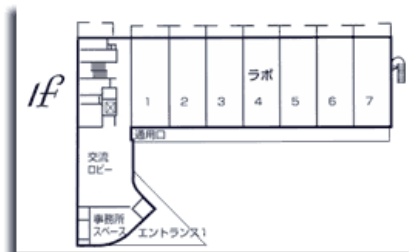
入居対象

<新規創業者>

- ・創業準備中または創業間もない企業および個人
- ・研究開発により、新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す創業間もない企業および個人

<企業>

- ・新分野進出により経営基盤の強化を目指す中小企業
- ・研究開発により新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す中小企業



1階平面図



2階平面図

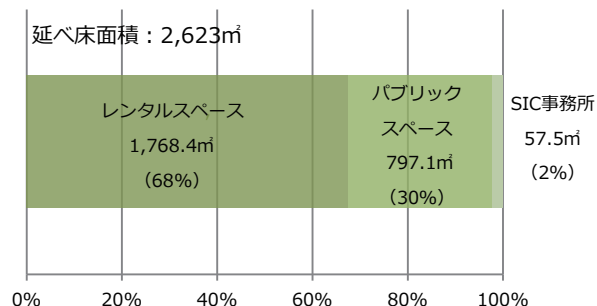


3階平面図

入居期間

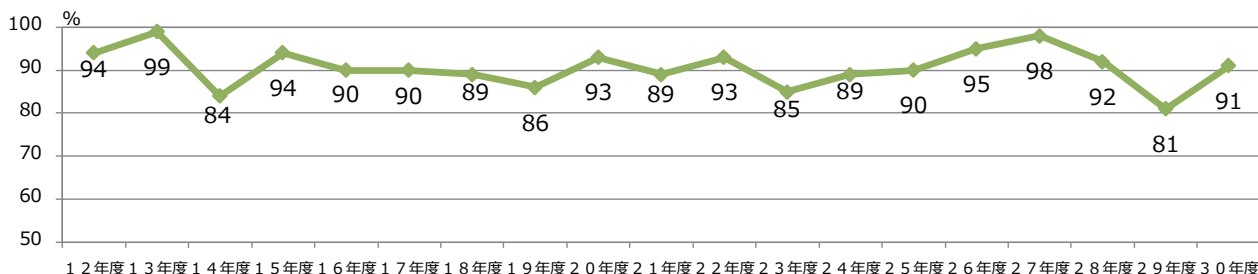
3年間 (2年間の再契約が2回可)

施設概要



	ラボ	セミラボ A	セミラボ B	スモール オフィス A	スモール オフィス B
設置階	1 階	2 階		3 階	
部屋数	7 室	7 室	7 室	12 室	13 室
床面積	94.5㎡	47.3㎡	31.5㎡	23.6㎡	17.3㎡

入居率 (賃料ベース)

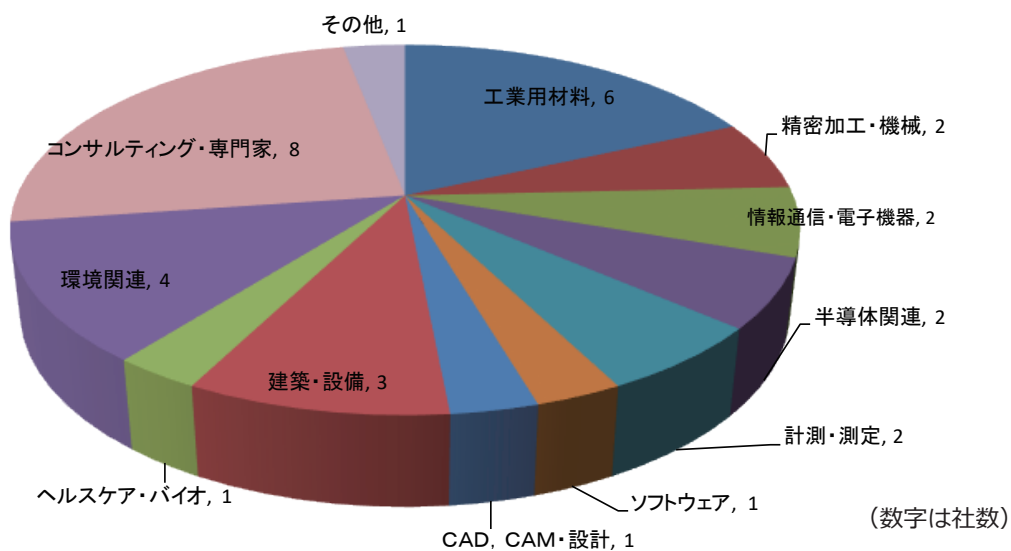


1-1-2

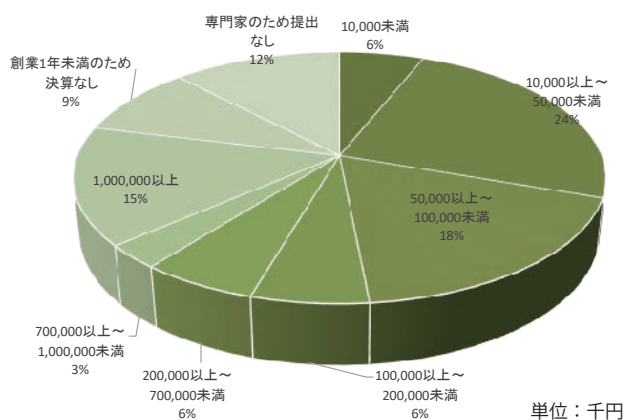
S I C - 1

入居企業データ (平成31年3月末)

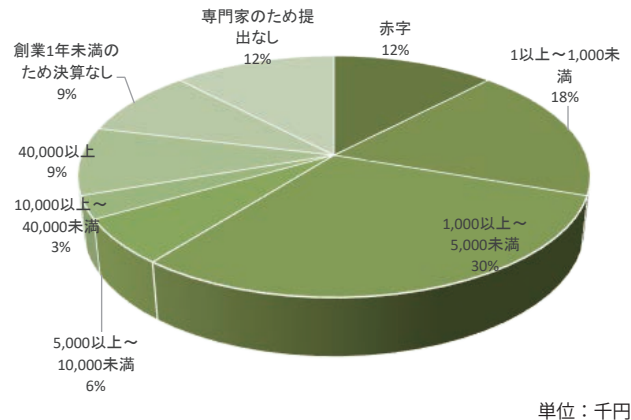
業種



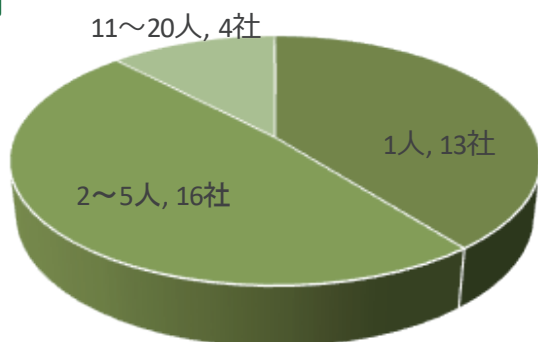
売上高



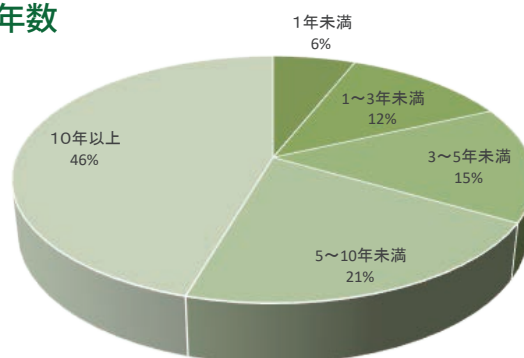
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計 25,136,317 千円
雇用者合計 33 社 109 人

1-2-1

SIC-2 (ポストインキュベーションセンター)

入居対象

<企業>

- ・創業期を経てさらなる規模拡大を目指す企業
- ・新分野進出によりさらなる規模拡大を目指す企業
- ・優れた技術・サービスを保有し、株式公開を目指す企業
- ・企業の研究開発部門

<産学連携企業等>

- ・産学連携による事業化を目指し、共同研究開発を行うグループ、企業、研究者等
- ・大学発の技術を活用し、事業化を目指すグループ、企業、研究者等
- ・大学研究室

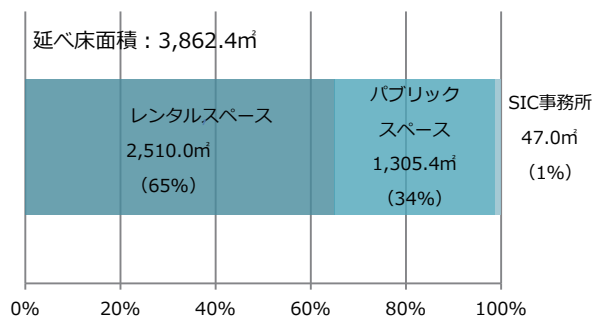


1階平面図

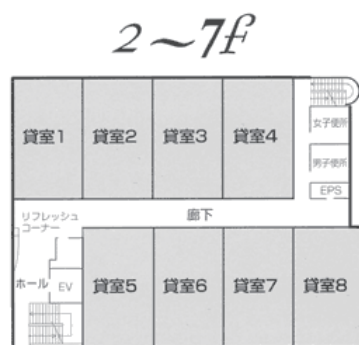
入居期間

3年間 (再契約可能)

施設概要

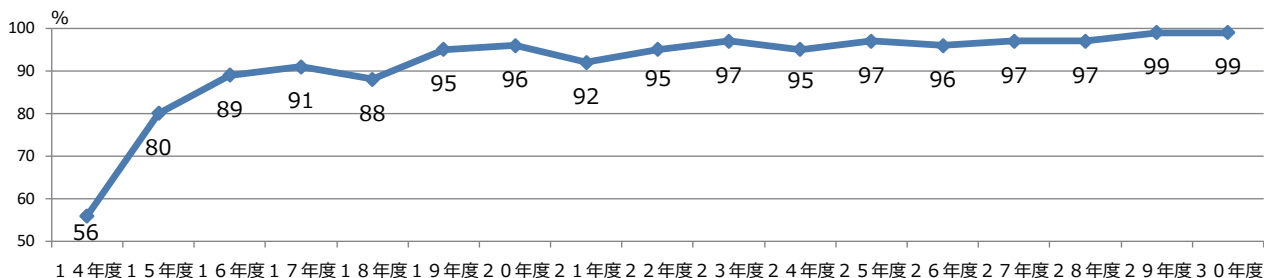


	セミラボ	オフィス
設置階	1～4階	5～7階
部屋数	26室	24室
床面積	50.2m ²	50.2m ²



2～7階平面図

入居率 (賃料ベース)

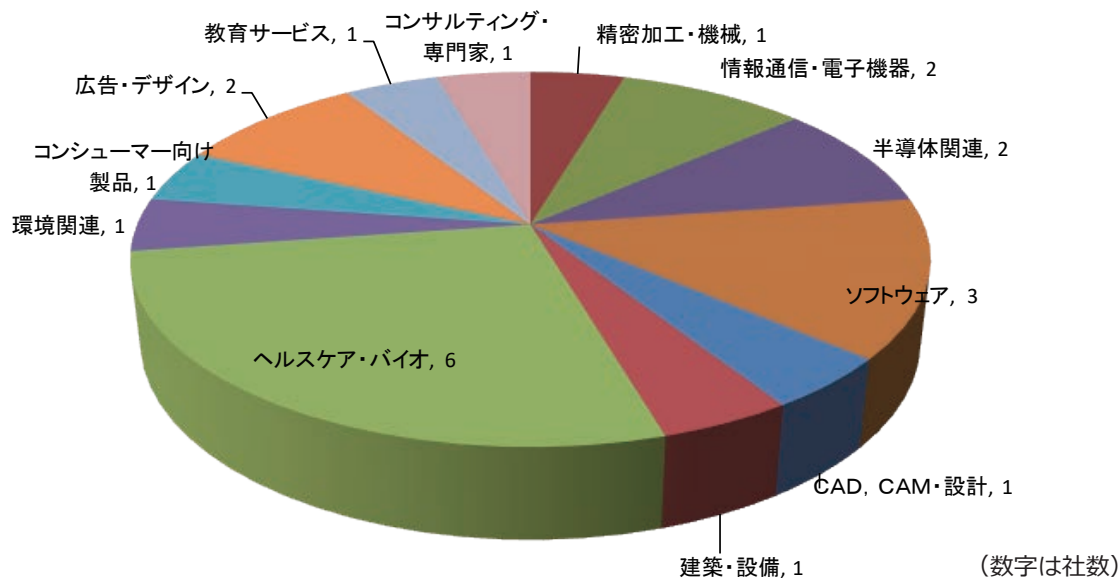


1-2-2

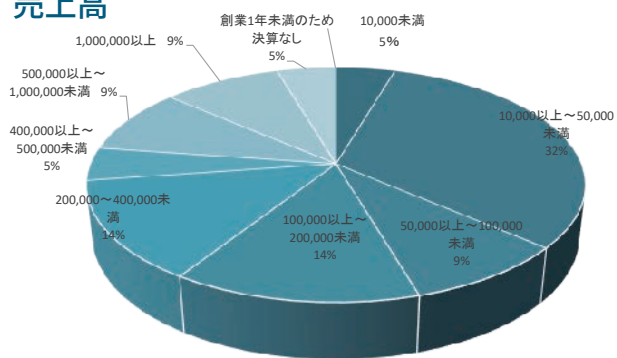
S I C - 2

入居企業データ (平成31年3月期)

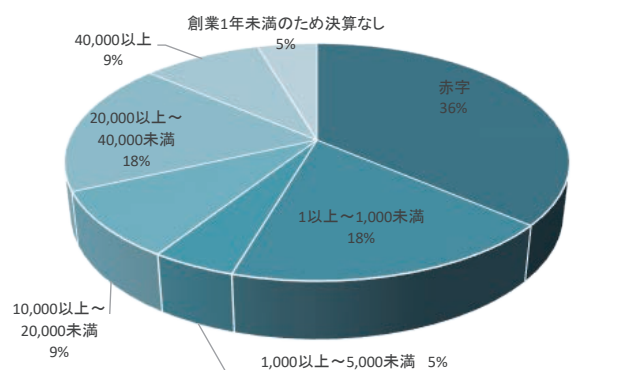
業種



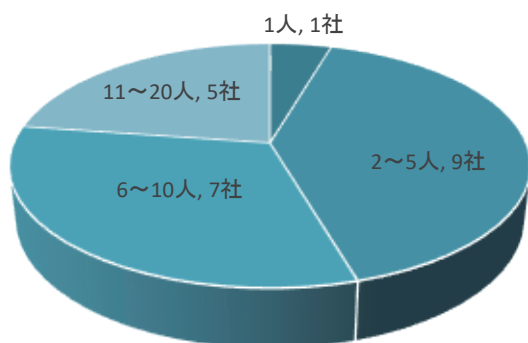
売上高



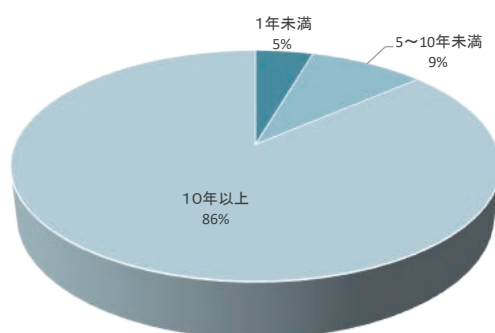
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計	11,747,2469 千円
雇用者合計	22 社 167 人

1-3-1

SIC-3 (イノベーションラボ)

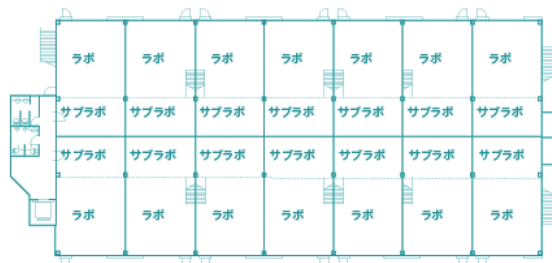
入居対象

<企業>

- ・インキュベーション施設での創業期を経て、更なる規模拡大を目指す企業
- ・独創的な技術により、更なる規模拡大を目指す地域の中小起業

<産学連携企業等>

- ・大学や企業間の連携による事業化を目指して共同研究開発を行うグループ

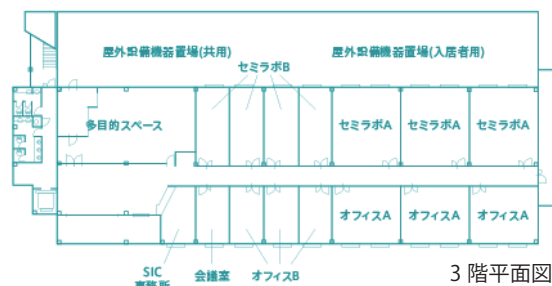
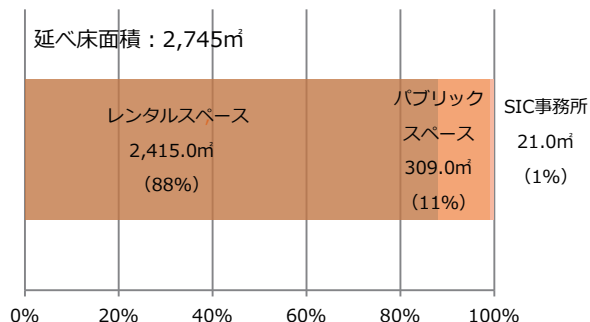


1階, 中2階平面図

入居期間

5年間 (再契約可能)

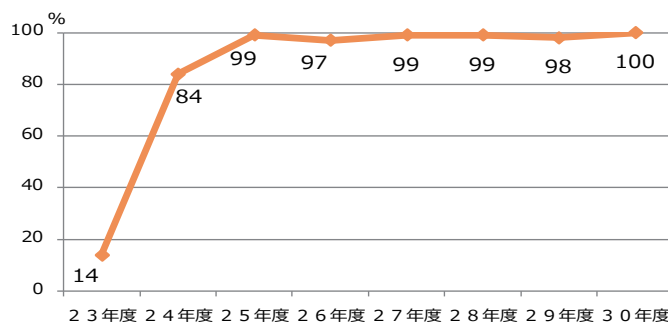
施設概要



3階平面図

	ラボ	セミラボA	セミラボB	オフィスA	オフィスB
設置階	1階 : 中2階			3階	
部屋数	14室	3室	3室	3室	3室
床面積	84m ² : 28m ²	56m ²	28m ²	42m ²	21m ²

入居率 (賃料ベース)

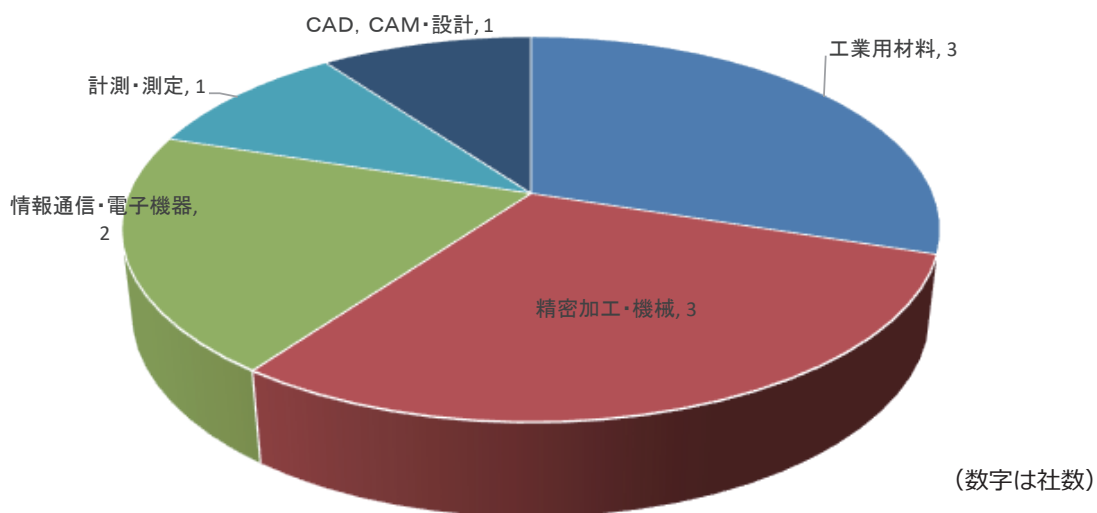


1-3-2

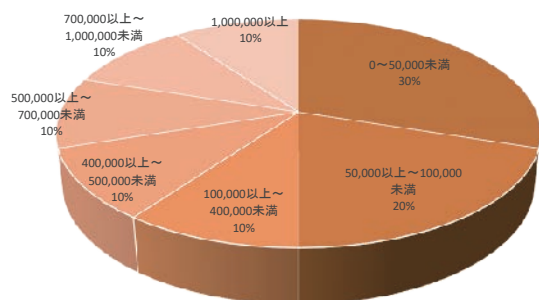
S I C - 3

入居企業データ (平成31年3月期)

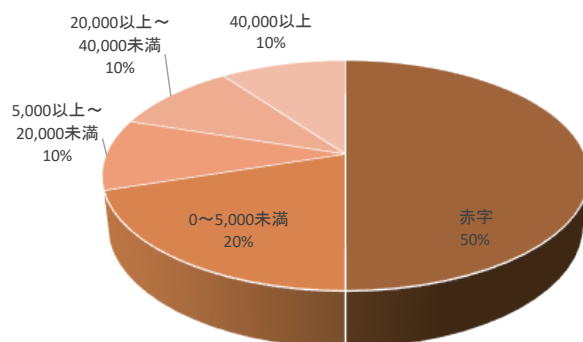
業種



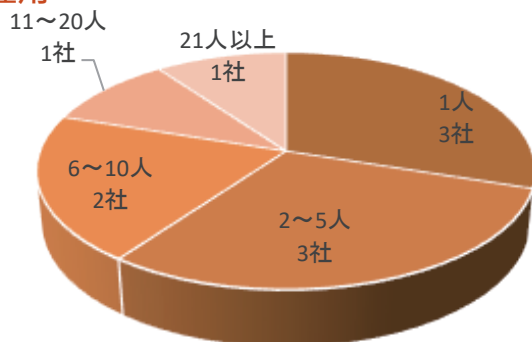
売上高



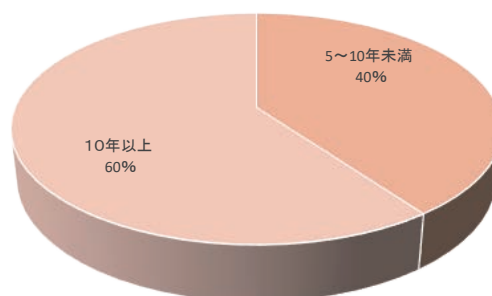
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計	3,551,022 千円
雇用者合計	10 社 100 人

1-4

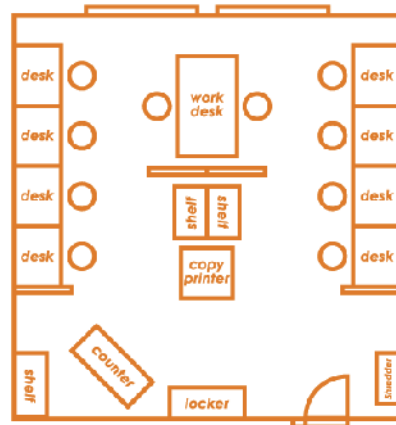
Desk⑩ (インキュベーション型シェアードオフィス)

Desk⑩とは

Desk10（デスクテン）は創業者または創業準備中の方などがビジネスに必要な機能を他の会員とシェアすることでオフィスがリーズナブルに利用できるサービスです。事務機器や会議室なども利用できて、住所使用も可能。しかも、サービスを提供するのは18年以上にわたりインキュベーション施設を運営しているSICで、経験豊富なインキュベーションマネージャーも常駐しています。

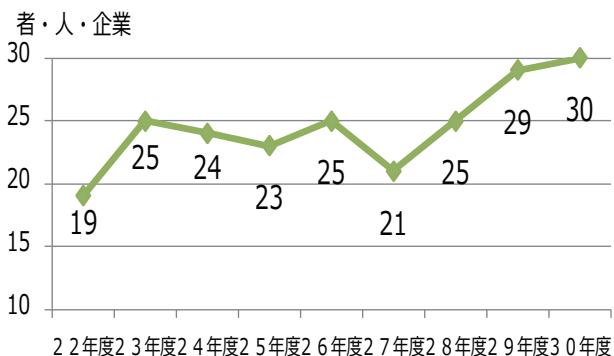
各種サービス

デスク（フリーアドレス）、ワークスペース、オフィス機器、住所使用、専用ロッカー、打ち合わせ・商談スペース、リフレッシュルーム、貸し会議室

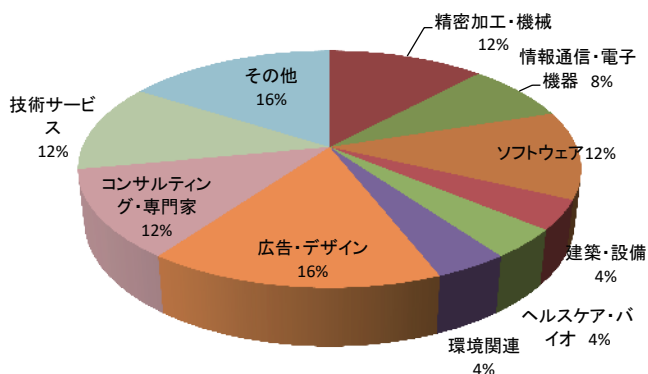


オフィス平面図

入居者数



業種

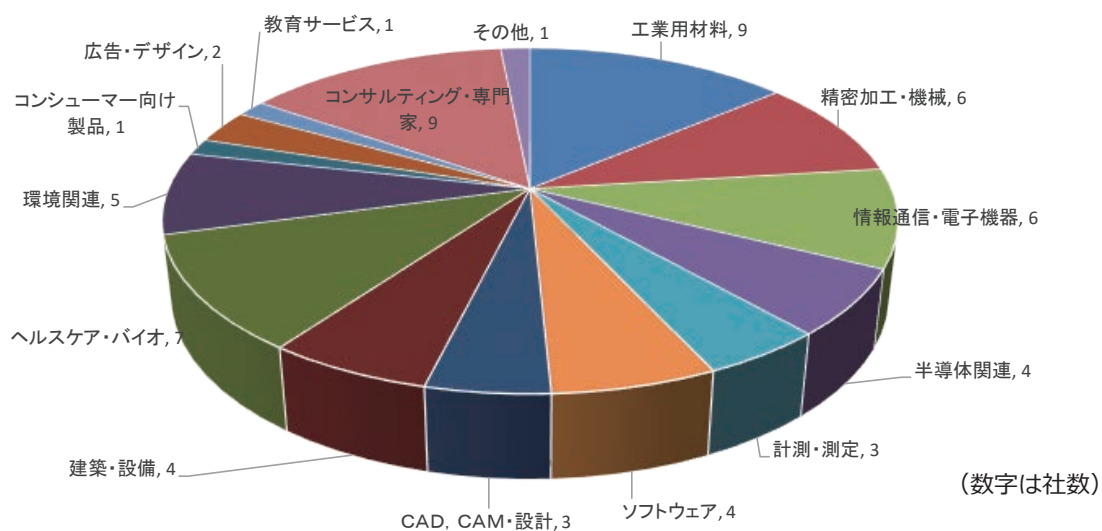


1-5-1

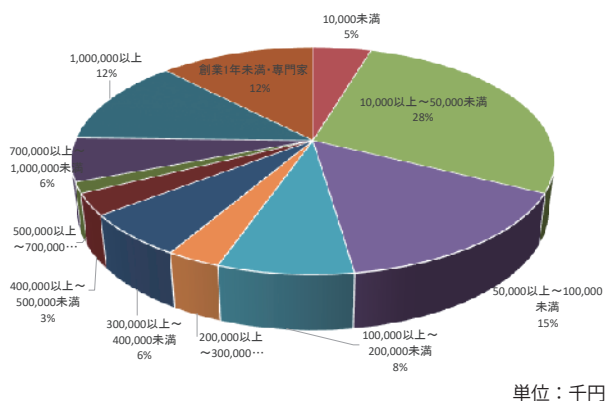
S I C 全体

入居企業データ (平成31年3月末)

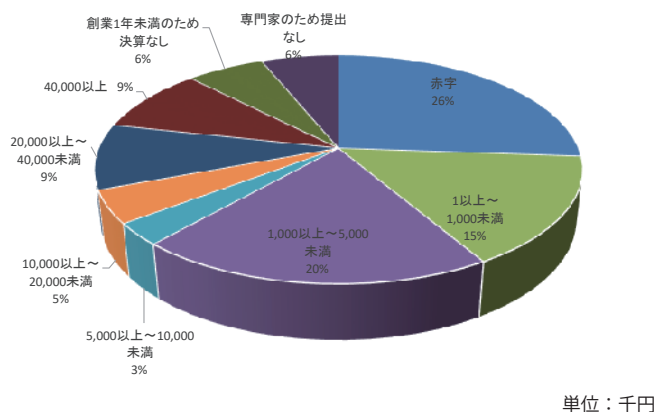
業種



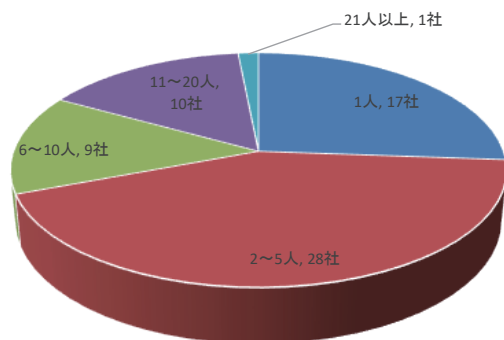
売上高



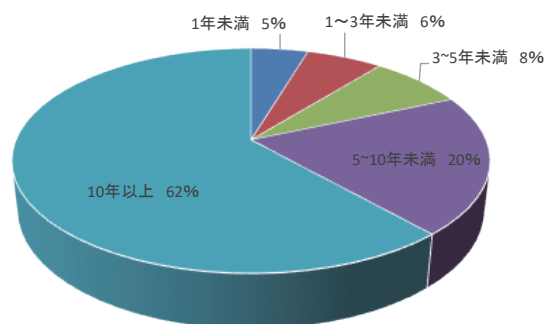
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



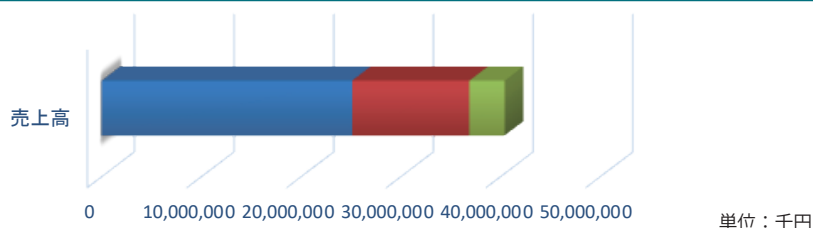
売上高合計 40,434,585 千円
雇用者合計 65 社 376 人

1-5-2

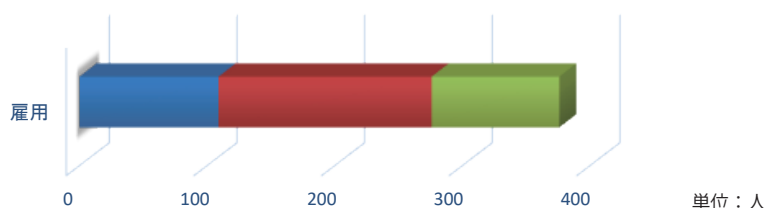
S I C 全体

入居企業データ (平成31年3月末)

売上高 40,434,585 千円



雇用 376 名



知的財産 (平成30年度内)

	特 許		実 用 新 案		意 匠		商 標	
	企業数	件数	企業数	件数	企業数	件数	企業数	件数
出願数	10	17	0	0	0	0	2	3
うち海外	1	1	0	0	0	0	0	0
権利化数	5	5	0	0	0	0	2	6
うち海外	2	2	0	0	0	0	0	0

研究開発補助金 (平成30年度内) 6 社 6 件

IT 導入補助金、希少疾病用医薬品事業化支援、平成 29 年度補正ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金、平成 29 年度補正小規模事業者持続化補助金

展示会出展 (平成30年度内) 20 社 43 件 (海外開催含む)

テロ対策特殊装置展、セキュリティショー、中小企業ものづくりサービス展、駅と空港の設備機器展、水イノベーション (東京ビッグサイト)、ラパリムスゲル、チタンブリッジ、ジェミーナ、ポリマー材料フォーラム、テクニカルショウヨコハマ 2019、光とレーザーの科学技術フェア 2018、OPIE19、IoT Technology2018、JIMA2018 (トーレック社ブースにて)、ワイヤレスジャパン 2018、エレクトロテストジャパン、electronica China2019、日本金属学会 2018 春期講演大会、日本金属学会 2018 秋期講演大会、EBSD Meeting2019、軽金属学会展示会、センサエキスポジャパン 2018、名古屋機械要素技術展 (M-TECH 名古屋)、M-TECH (機械要素技術展) 東京、中小企業 新ものづくり・新サービス展、ロボデックス ロボット開発・活用展、JapanRobotWeek2018、産業交流展 2018、国際画像機器展、画像センシング展、高機能フィルム展、アグリ EXPO、ALD2018 (国際学会の展示ブースに出展)、TECHNO-FRONTIER2018、低温工学協会展示会 (春季)、低温工学協会展示会 (秋季)、国際超電導シンポジウム展示会、加速器学会企業展示、中小企業新ものづくり新サービス展 2018

新製品・新サービス (平成30年度内) 16 社 30 件

カメラサーバ HCS-4、ビデオエンコーダ ULC、ビデオデコーダ ULC、車載用モニターバックライト、伸線用処理剤 (宝日銅線) 環境対応型、卓上天秤台、短パルスレーザー装置、各種モジュール、ハイブリッドレーザー装置、災害対応型ソーラーバス停留所システム (仮)、HDMI・AOC 販売、100G-BER、25G-BERT、CareRay 社フラットパネルディテクタ、VJX 社 X 線源、DtetectionTechnology 社 ラインセンサ、East3One 社 X 線ディテクタ用ソフトウェア、AI-guided INTENDD、ワイヤレスガイドシステム Bluetooth 機能付、Raspberry Pi、関連製品制作、開発サポート、スマートフォン型音声ガイド機器、ハイレゾ対応低遅延ステレオワイヤレスオーディオモジュール、猫用アレルギー検査、犬用・猫用免疫検査、BM00061-01、さがめしみつけ、化粧水ヴェンシェ ヴェンシェ、SLG-600 (照明)、SPX-7B80N (照明)、PDP アンブ

2-1

経営サポート

企業支援

事業の目的

創業や新分野進出に意欲的な入居企業や地域企業の様々な経営課題を解決する。

▶ 経営課題支援の内容

対 象：入居企業・地域企業

支援手法：インキュベーションマネージャーとメンター、アドバイザー、専門家等が連携した支援

協力機関：きらぼし銀行

支援契約数：業務委託契約 13 社、顧問契約 12 社（入居企業 8 社、地域企業 4 社）

支 援 内 容		入居 企業数	地域 企業数	計
顧問契約		8 社	4 社	12 社
業務委託契約	WEB制作	—	1 社	1 社
	製品・サービス案内製作	—	3 社	3 社
	経営革新計画申請	—	1 社	1 社
	生産性向上	—	2 社	2 社
	ISO取得	—	2 社	2 社
	特許・商標等取得	—	2 社	2 社
	人事・労務	—	1 社	1 社
	技術指導	1 社	—	1 社
	業務委託契約 小計	1 社	12 社	13 社
	合計	9 社	16 社	25 社

2-2-1

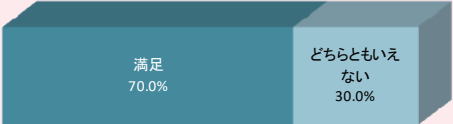
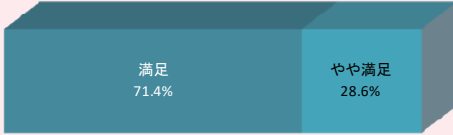
経営サポート

セミナー (1)

事業の目的

入居企業や地域企業に経営のヒントを提供する。

対 象：入居企業・地域企業

実施事業	参加人数	具 体 的 内 容
経営者セミナー	134 名	テーマ：ブレない老舗のプライド。ITと働き方改革に賭けた経営再 — 最先端のおもてなしシステム — 講 師：株式会社 陣屋 代表取締役 女将 宮崎 知子 氏 日 時：平成 30 年 12 月 5 日（水） 場 所：町田市文化交流センター （プラザ町田ビル 5 階・けやき） 
ミニセミナー	10 名	The HINT 39 テーマ：補助金等支援制度の探し方 ※相模原市「中小企業研究開発補助金」公募説明会との同時開催 講 師：SIC インキュベーション・マネージャー 日 時：平成 30 年 5 月 17 日（水） 場 所：さがみはら産業創造センター 
	6 名	The HINT 40 テーマ：プロ野球監督が経営者だったら… 講 師：SIC インキュベーション・マネージャー 日 時：平成 30 年 7 月 11 日（水） 場 所：さがみはら産業創造センター 
	8 名	The HINT 41 テーマ：ケースに学ぶ！！上手な銀行借入れ 講 師：川津公認会計士事務所 代表 川津 文武 氏 日 時：平成 30 年 9 月 20 日（木） 場 所：さがみはら産業創造センター 

2-2-2

経営サポート

セミナー (2)

実施事業	参加人数	具 体 的 内 容
ミニセミナー	6 名	The HINT 42 テーマ：人材が定着・成長する組織づくりとは？ 講 師：鈴木道士行政書士・社会保険労務士事務所 代表 鈴木 道士 氏 日 時：平成 30 年 11 月 12 日（月） 場 所：さがみはら産業創造センター 
	8 名	The HINT 43 テーマ：増税前にしっかり理解！！今さら聞けない“消費税”の仕組みと実務 講 師：天野俊裕税理士事務所 代表 天野 俊裕 氏 日 時：平成 31 年 3 月 20 日（水） 場 所：さがみはら産業創造センター 

2-3

技術開発

さがみはら表面技術研究所

事業の目的

地域企業と大学・研究機関の連携・交流機能を整備・運用し、企業の技術的な強みを活かした事業開発に貢献する。

活動実績

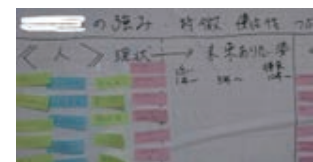
活動内容	
1	技術相談・コーディネート・技術支援等
2	交流・広報活動（講演・ラジオ出演等）



活動実績 事例

1. 技術相談・コーディネート・研究支援等

- ①ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金（平成 29 年度補正・中小企業庁）では、各中小企業向けに事業計画立案から関わり、申請書の作成指導まで一貫した支援を行った。また補助事業採択後には、事業進捗アドバイスや補助事業完了後のサポートに至るまで、多岐にわたる業種の中小企業に対して支援を行った。
- ②経営力向上計画申請についての相談・申請支援を多岐にわたる業種の中小企業に対して行った。
- ③先端設備等導入計画申請についての相談・申請支援を多岐にわたる業種の中小企業に対して行った。
- ④建設業企業の新サービス構築検討に向け、ドローン活用による建物外壁診断実証試験を推進した。
- ⑤製造業企業の中堅社員に向けた人材育成研修等を定期的実施した。
- ⑥市内企業より自社製造品における異物混入原因調査等の相談を受け、分析評価のサポートを行った。
- ⑦ロボットイノベーションへ出展し、県内企業をはじめとする関東近郊企業との交流連携、市場調査等を行った。
- ⑧製造業と国立大学の実用化に向けた共同研究を推進するためのアドバイスをを行った。
- ⑨戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン・経済産業省）の継続調査の支援と報告を行った。
- ⑩女性起業家向けのセミナーを行い、マーケティング・ブランディング等の重要性を伝えた。



2. 交流会・広報活動（講演・ラジオ出演等）

- ①立教大学名誉教授・山口義行氏が主宰する、中小企業サポートネットワーク Small Sun 配信 のインターネットラジオ「トモとリエコのモノづくりサポーターズ」でパーソナリティを務め、様々なものづくり企業を紹介している。
(<http://ss-ir.blogspot.jp/search/label/>)
- ②各種企業団体等での講演者として招聘され、表面研の活動を通してオープンイノベーションや補助金活用事業化成功事例などを伝えた。

2-4-1-1

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（フォーラム）

事業の目的

相模原市を中心とした神奈川県県央地域及び町田市、八王子市に広がる首都圏南西地域において、企業、大学・研究機関、金融機関及び支援機関の広域連携の場として首都圏南西地域産業活性化フォーラムを開催し、さらには、産学官連携による分科会・研究会の推進や情報提供を通じ、新事業の創出や技術の高度化などによる地域産業の活性化を目指す。

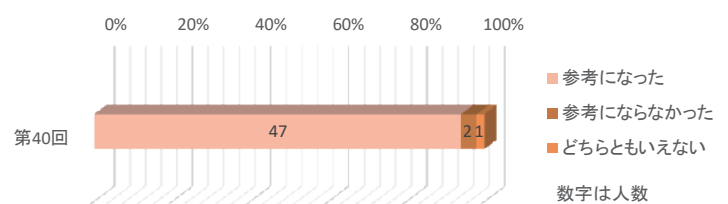


参加者数

南西フォーラム	
第 40 回	133 名



顧客満足度



顧客の声

【第 40 回】・AI に関してぼんやりとしたイメージでしたが、かなり前から開発が行われていたのには驚きました。様々な方面で活躍し始めている人工知能は、常に気にしておくべきツールだと感じました。

- ・AI に関して知らないことや固定概念でいっぱいであったことに、改めて気づかされました。
- ・理論から事例までバランスのよい内容でした。
- ・AI 導入自体が目的なのでなく、どう活用するかが重要であると学びました。



第 40 回南西フォーラム



概要

第 40 回 平成 30 年 8 月 28 日（水）

AI で変わる “未来” と実用化の “現在地” ～中小企業における人工知能の活用の可能性～

○「人工知能はこれからの産業やビジネスのあり方をどう変えていくのか」

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 企画管理部門 副部門長 / テクノロジー・エバンジェリスト
(兼務) Japan Digital Design 株式会社 主席研究員 梅木 秀雄 氏

○「AI に対する誤解を解消し、AI とよい関係を築く」 株式会社アジラ 最高執行責任者 (COO) 三村 完 氏

○「最適な保育所入所選考を実現する AI を用いたマッチング」

富士通株式会社 AI サービス事業本部 第二フロンティア事業部 マネージャー 宮崎 俊也 氏

○「人工知能による問題解決のスタートラインの立ち方ー事例紹介と実体験を通じてー」

東京工業高等専門学校 電気工学科 助教 大前 佑斗 氏

○「フォーラムを振り返って」

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 企画管理部門 副部門長 / テクノロジー・エバンジェリスト
(兼務) Japan Digital Design 株式会社 主席研究員 梅木 秀雄 氏

2-4-1-2

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（フォーラム）

▶ フォローアップの取り組み

南西フォーラムの参加者を主な対象として、AIに関する各社の課題やニーズをさらに深掘りし、フォーラムを契機としたAIの導入・活用を支援し成果に結びつけていくことを目的に、参加者へヒアリングを含むフォローアップを実施した。

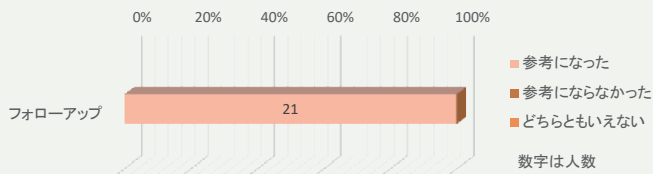
①フォーラム参加者へのヒアリング

フォーラム参加者を中心に16社・19名へのヒアリングを実施した。ヒアリングを通して、ソフトウェア開発企業やロボットシステムインテグレータ企業等のAIの開発企業側では、研究開発プロセスや人材育成等に関する具体的な課題が見出された。しかしながら、AIを導入するユーザー企業側では、自社の経営課題に対してAIがどう活かされるのかについて、具体的なイメージを持つことができていない状況が明らかになった。

《ヒアリングを実施した主な業種》

ソフトウェア開発、IoTシステム開発、各種ロボット試作開発・販売など

②フォローアップの実施と結果

実 施	《開催概要と結果》
AI ミニセミナー	日 時：平成31年2月25日（月） 内 容：AIを活用した機械の故障検出システムの作り方 ～時系列信号を対象としたAIの開発・構築手法の事例～ 参加者：21名（定員20名） 場 所：さがみはら産業創造センター 顧客満足度：  顧客の声：・AIのセミナーは概念や事例の説明が多い中で、非常に具体的で面白かった。 ・非常に興味のある内容なので、1回ではなく数回に分けてさらに詳しくセミナーを作って頂けるとさらに有難い。できれば、実際にコードを書いて行えると有難い。
AI マッチング・プロジェクト	ヒアリングを実施した市内企業に対して、今後はAIを活用した技術開発・製品開発に取り組んでいきたいとの意向があったことから、AIを組み込んだコミュニケーションロボットを開発・販売しているAI開発ベンチャー企業との引き合わせを行った。 《マッチング概要》 日 時：平成31年1月31日（木） 場 所：東京都渋谷区 内 容：両社の事業・製品等に関する紹介を行ったのち、AIやロボットに関する開発について意見交換を行った。今後の連携については、相互に可能性を探っていくこととなった。

2-4-2-1

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（分科会）

事業の目的

相模原市を中心とした神奈川県県央地域及び町田市、八王子市に広がる首都圏南西地域において、企業、大学・研究機関、金融機関及び支援機関の広域連携の場として首都圏南西地域産業活性化フォーラムを開催し、さらには、産学官連携による分科会・研究会の推進や情報提供を通じ、新事業の創出や技術の高度化などによる地域産業の活性化を目指す。

概要

（1）IoT 分科会

IoT 分科会では、相模原市における IoT 関連技術開発および事業開発を推進するために、産官学連携の場を作るとともに、具体的な開発テーマを設定し、技術開発・製品開発・市場開発を推進する体制を確立することを目的とした研究会を開催した。

		開催日	場所	内容	参加者数
IoT 分科会	第 1 回	平成 30 年 5 月 17 日	サレジオ工業高等専門学校	IoT 技術の具体的な適用に向けて 等	12 名
	第 2 回	平成 30 年 7 月 19 日	さがみはら産業創造センター	ワーキンググループ進捗状況報告	12 名
	第 3 回	平成 30 年 9 月 13 日	市内中小企業 さがみはら産業創造センター	現場見学・進捗確認 基調講演「IoT/ データ活用によるビジネス創造の本質と実際」	12 名
	第 4 回	平成 30 年 11 月 8 日	市内中小企業 さがみはら産業創造センター	現場見学・意見交換 ワーキンググループ進捗報告	12 名
	第 5 回	平成 31 年 1 月 10 日	さがみはら産業創造センター	年間の活動振り返り	12 名
	第 6 回	平成 31 年 3 月 14 日	市内中小企業 さがみはら産業創造センター	現場見学・意見交換 基調講演「IoT 活用による事業革新とその方法論」	12 名

（2）WRC 分科会

WRC（World Robot Challenge）分科会では、相模原市におけるシステムインテグレータ等ロボット関連企業間のネットワーク構築や技術力向上等を目的に、市内に拠点を置く 8 社で「チームさがみはら」を結成してロボットの国際的な競技会である WRC に参加した。総合順位はものづくりカテゴリーにエントリーした 16 チーム中第 15 位。但し、種目ごとの順位で見ると、キッキング競技で第 5 位に入った。

※WRC は、経済産業省ならびに新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の主催によるロボットの国際イベント “World Robot Summit 2018” の一環として実施されたものである。

2-4-2-2

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（分科会）

※下記キックオフミーティング以降は、必要に応じて不定期かつ有志でのミーティングやロボットシステムの開発作業に取り組んだ。

		開催日	場所	主な内容	参加者数
WRC 分科会	チームさがみはら キックオフミーティング	平成 30 年 6 月 6 日	さがみはら産業創造センター	1. WRC の概要・スケジュール 2. 今後の活動方法について	18名
	WRC 大会協議委員会 によるチーム視察	平成 30 年 9 月 18 日	さがみはら産業創造センター	1. チームの現状調査 2. ルール関連、安全衛生関連 3. 今後のスケジュール予定	10名
	World Robot Challenge 2018（大会本番）	平成 30 年 10 月 17 日～ 21 日	東京ビッグサイト	1 日目 タスクボード 2 日目 キットティング 3 日目 アッセンブリ① 4 日目 アッセンブリ② 5 日目 表彰・エキシビジョン	—

2-5-1

技術開発

産業用ロボット導入支援事業

事業の目的

ものづくり中小企業を中心とした相模原市内企業への産業用ロボット導入支援を通して、人手不足等の経題を抱える企業の生産性向上等を図る。また、市内におけるロボット関連企業の育成や集積等に取り組むことにより、ロボット産業の創出を通じた地域産業振興を図る。

概要

(1) さがみはらロボット導入支援センター

SIC-2 セミラボ内に設置している「さがみはらロボット導入支援センター」で、産業用ロボットの展示、簡易相談及びロボット操作教育などを実施。

○来所者実績（平成30年4月～平成31年3月の1年間）
延べ268団体・751名（内、製造業者：92社）

○ロボットシステム 6システム設置・展示



(2) ロボット導入を具体的に検討する企業向けの相談・コンサルティング

産業用ロボット導入が進んでいない工程への導入を支援するために、ロボット導入を検討する企業への簡易自動化相談及び自動化診断などの活動を実施。

活動内容	企業数	市内企業数	市外企業数
窓口相談 さがみはらロボット導入支援センターでの相談	18社	9社	9社
出張相談 工場の自動化診断を経て、ロボットによる自動化システム、作業改善・工程改善による生産性向上施策などの提案	4社	3社	1社

(3) カイゼン支援事業

中小製造業の技術者を対象に自動化や省人化を進めるうえでの知識や考え方など、中小企業の実産性向上に資するセミナーを開催。

「生産性向上のためのIEセミナー」（受講者数：12社・19名）

講師：青山学院大学 理工学部 経営システム工学科 教授 松本 俊之 氏

「生産性向上のためのVEセミナー」（受講者数：11社・15名）

講師：株式会社 RK コンサルティング 代表取締役 丹澤 一昭 氏



「生産性向上のためのIEセミナー」



「生産性向上のためのVEセミナー」

2-5-2

技術開発

産業用ロボット導入支援事業

(4) ロボット技術者育成事業

中小企業の技術者が産業用ロボット導入に必要な知識及び技術を習得することを目的にセミナーを開催。

「生産性向上のための情報自動化セミナー」(受講者数：12社・19名)

講師：ケイデンスコンサルティング 代表／さがみはらロボット導入支援センター 川下 敬之 氏
株式会社 MEMO テクノス 代表取締役 渡邊 将文 氏

ロボット操作教育(実習コース)「KUKA LBR iiwa のプログラミング解説」(受講者数：9社・9名)

講師：KUKA Japan 株式会社 営業技術 担当マネージャー 安藤 浩司 氏
株式会社メディアプラス 代表取締役 金沢 勇 氏、松野 英雄 氏

ロボット操作教育(実習コース)「ABB YuMi の紹介」(受講者数：18社・21名)

講師：ABB 株式会社 ロボティクス&モーション事業本部 ロボティクス事業部
ロボット&アプリケーション部 高橋 暢 氏・鈴木 舟 氏

ロボット操作教育(基礎コース) 受講者数：6社・8名

講師：三菱電機システムサービス株式会社 太田 忠靖 氏、芳賀 雄太 氏



情報自動化セミナー



操作教育 (KUKA LBR iiwa)



操作教育 (ABB YuMi)



操作教育 (基礎)

(5) オープンソースプログラマ育成事業

オープンソースによるロボット制御プログラミングの先端的な知識と開発能力の企業間における共有を目的として、相模原商工会議所による「さがみはら HSR 社会実装研究会」の活動に対して、主に生活支援ロボット“HSR”の開発元であるトヨタ自動車株式会社との窓口の役割として協力。

(6) システムインテグレータ育成事業

システムインテグレータとそこに従事するロボットエンジニアが産業用ロボット導入に必要な不可欠な存在であるにも関わらず圧倒的に不足している状況を解決するために、専門人材の育成に必要な高度教育を実施。

○産業用ロボットビジネスフォーラム「“ロボットビジネス”でチャンスを掴みませんか？」(参加者数：165名)

日 時：平成 30 年 10 月 2 日 (火)

場 所：サン・エールさがみはら

内 容：基調講演『Sler 協会設立と今後のビジネスについて』

FA・システムインテグレータ協会 会長 久保田 和雄 氏

パネルディスカッション『地域間でのネットワーク構築の重要性について』

・ファシリテーター

一般社団法人日本ロボット工業会 システムエンジニアリング部会長

小平 紀生 氏 (三菱電機株式会社 FA システム事業本部 機器事業部 主席枝監)

・パネリスト

三明機工株式会社 代表取締役社長 久保田 和雄 氏

リンクウィズ株式会社 代表取締役 吹野 豪 氏

株式会社ブイ・アール・テクノセンター 取締役・企画営業本部長 横山 考弘 氏

JET 株式会社 代表取締役 遠藤 法男 氏

株式会社ミナミ工機 取締役 南 篤史 氏

2-5-3

技術開発

産業用ロボット導入支援事業

○ロボットシステムインテグレータ養成講座（受講者数：19社・22名）

期 間：平成30年12月5日～平成31年2月15日（全9回）

場 所：さがみはら産業創造センター、サン・エールさがみはら、実習先企業

内 容：

	内 容	講 師
第1回	戦略的ヒアリング力とプレゼン力	株式会社スタンコミュニケーションズ
第2回	ロボットシステム導入を成功に導くプロジェクトマネジメント講座	アイシンク株式会社
第3回	グループワーク事前説明 （案件説明、ヒアリング、現地調査）	
第4回	産業用ロボット導入手順講座 ーロボット導入による社内イノベーションー ロボットシステム導入手順（RIPS）講座	株式会社アラキエンジニアリング ミツイワ株式会社
第5回	グループワーク中間発表	
第6回	ロボットSlerのための安全講座	日本認証株式会社
第7回	公的研究開発プロジェクト提案にあたってのポイント 最先端画像処理講座 ー知能ピッキングロボット革命ー	東京大学 名誉教授 佐藤 知正 氏 Kyoto Robotics株式会社
第8回	工場見学	ユタカ精工株式会社 株式会社クフウシャ
第9回	シンプルな設備設計の着眼点 グループワーク最終発表	青山学院大学 教授 松本 俊之 氏



フォーラム



養成講座

2-6

人材育成

SIC 経営塾

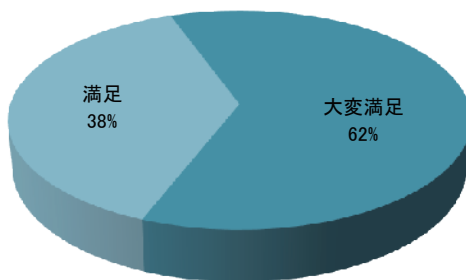
事業の目的

先端的なケーススタディを通じ、経営の理論と実践を学び、塾生自らが事業構想を再構築することにより、「真の経営力」を養成することを最終目的とする。

▶ 受講生

- ・ 11名 累計 167名
- ・ 次世代の経営者や経営幹部の受講生が多い

▶ 顧客満足度



▶ 活動内容

講義

最先端の経営理論を学びます。

- 先端企業経営者の実体験や様々な先進的な取り組み事例を通して最新の経営理論と実例を学び、自社の課題に置き換えて検証します。



討論

塾生、コーディネータとの討議を重視します。

- 課題図書、事例研究を基に、異業種の方との討論が自社を見つめ直し、自社の事業構想を構築する良い機会となるでしょう。



事業構想の再構築

最終ゴールは自社の事業構想の再構築です。

- 実証的な研究や討論を通し、自社を客観的に見つめ直し事業構想を策定し、自社における「NEXT STAGE」を考えます。



■カリキュラム：

回	課題シート・講義内容
1	オリエンテーション
2-3	わが社の経営の現状を語る（1泊2日合宿）
4	現状を分析する
5	存在意義を問う
6	コアコンピタンスを定義する
7	戦略シナリオを考える
8	財務構造を改善する
9	組織文化の変革を仕掛ける
10	ビジネスプランを練り上げる
11	わが社の経営の将来を語る（自社の事業構想の発表）

2-7

人材育成

SIC 職場リーダー養成塾

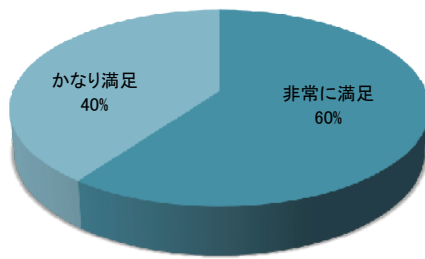
事業の目的

地域企業の中堅層の職場リーダーに対して、業種の異なるリーダーとの他流試合やコミュニケーション研修、社内実践による職場の課題解決を通して、職場リーダーとして求められる「組織で成果を出す力」を養成する。

▶ 受講生

15名 累計 190名

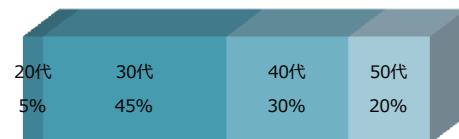
▶ 顧客満足度



▶ 顧客の声

- ・他人の意見を聞く機会は少ないので有意義だった
- ・自分に足りないものが学べた
- ・コミュニケーション、プレゼンの講義もためになった
- ・色々アドバイスをもらえ、仕事に活かしやすかった
- ・周りを巻き込み行動計画を立てながら課題を達成する流れを作ること
- ・人との接し方やコーチング、コミュニケーションの実践方法
- ・他社の方との交流の中で視野を広げることができた

▶ 受講生の年齢構成



▶ カリキュラム

	開 催 日	内 容
	4月下旬～5月下旬	事前ヒアリング
1	平成30年 6月 2日 (土)	オリエンテーション・職場のコミュニケーション①
2	平成30年 6月13日 (水)	課題解決の枠組みを理解する
3	平成30年 6月27日 (水)	職場の問題を抽出する
4	平成30年 7月 4日 (水)	
5	平成30年 7月 9日 (月)	職場のコミュニケーション②
6	平成30年 8月 8日 (水)	職場の課題解決の枠組みを検討する（問題把握、課題設定、目標設定、対策検討、行動計画）
7	8月上旬	課題解決取り組みフォロー個別指導（1回目）
8	平成30年 9月12日 (水)	職場の課題解決の枠組みを決定する
—	9月中旬～下旬	社内実践準備期間
—	10月～11月	社内実践期間（2ヶ月間）
9	平成30年11月 7日 (水)	プレゼンテーションを学ぶ
10	平成30年12月12日 (水)	成果発表会



2-8

人材育成

SIC カイゼン・スクール

事業の目的

企業が全社展開し、継続して実施することで経営体質の強化に結びつく“カイゼン活動”を受講生が体系的に理解し、研修を通して自社内における課題を抽出して、その解決に向けたカイゼン活動により「小さな成功」を生み出すことを目的とする。

▶ 受講生

- ・ 10名 累計 80名
- ・ 製造業等の現場リーダー層を対象としています

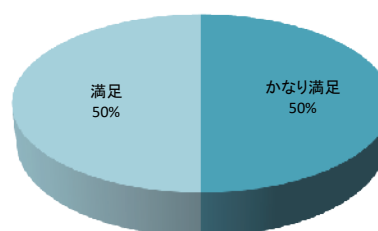
<受講した企業の業種>

無線機リース・レンタル、溶接機設計・製造、帆布製品製造、化粧品等の検査・包装、生産用機械器具製造、金属部品切削加工、流量計・継手製造 など

▶ カリキュラム

日程	講義内容	
7月下旬～8月下旬	現場訪問	講師（カイゼン・マイスター）による受講企業の現場診断と受講生への事前ヒアリング
9月8日（土）	オリエンテーション カイゼンの全体像（講義）	受講生によるカイゼンテーマ発表、カイゼン活動の目的・カイゼンの全体像に関する講義
9月22日（土）	講義・グループワーク① 「カイゼン活動の進め方」	カイゼン活動の基本的な進め方、カイゼン事例演習
10月5日（金）	現場実習	先端的なカイゼン活動を行っている現場での見学・実習
10月13日（土）	講義・グループワーク② 「品質改善の考え方・手法」	品質管理や品質保証の必要性、QC7つ道具の使い方や品質改善の手法
10月27日（土）	講義・グループワーク③ 「標準作業の概要」	カイゼン活動に必要な標準作業の概要、標準書作成演習
11月17日（土）	カイゼンの振り返りと今後の進め方	スクールの受講期間に実践したカイゼンの取り組みの振り返りと今後の進め方
12月8日（土）	成果発表会	スクール開講時に設定した自社の現場での課題について、その解決に向けた「カイゼン計画書」をスクール受講の成果として各自発表

▶ 受講生の満足度



▶ 修了生の声

- ・ 今回スクールを受講したことにより、カイゼンに対する考え方や進め方がわかり大変勉強になりました。今後も学んだことを活かして仕事をしていきたいです。
- ・ 講師の方々からは的確なアドバイスをいただき、スムーズにカイゼン活動を実践することができました。
- ・ スクールを受講して、カイゼンの手法や計画の立案などについて詳細に学ぶことができました。
- ・ 多種多様なカイゼンの手法や事例は大変参考になりました。スクールを通して、様々な視点から現場を見ることができるようになったと思います。



講義



グループワーク



成果発表会

▶ スクールの内容



まずは課題を明確化することから

カイゼン・スクールは、講師による事前の現場診断・ヒアリングによって、自社の課題と解決の方向性を受講生自身で明確化することから始まります。課題を明確にすることにより、スクールに取り組む目的意識も高まります。



活きたカイゼンの考え方と手法を学ぶ

講義では、受講生同士の議論・交流を促すグループワークも取り入れながら、経験豊富な講師陣からカイゼン活動の考え方と手法を学び、設定した課題の解決方法を探ります。また、現場実習では、他社工場のカイゼン活動を活きた教材として、自社ではどのようにカイゼンに取り組んでいくのがよいか、より具体的なヒントが得られます。



カイゼン計画の立案・実行へ

設定した課題の解決に向け、スクールを通して学んだ考え方と手法を取り入れたカイゼン計画を立案・実行し、その成果について最終回で発表します。そして、スクール期間中だけでなく、終了後も、それぞれの現場でカイゼンに取り組んでいただきます。



事前現場診断、講義・現場実習の講師は
(株)カイゼン・マイスターのアドバイザーです。

2-9

人材育成

さがみはら子どもアントレプレナー体験事業

事業の目的

小学生を対象に初めて出会う仲間と会社設立から決算までの会社経営のプロセスを疑似体験することで以下のようなことを学ぶ。

1. 会社や経済の仕組みを知る
2. 失敗を恐れずに挑戦できる心を養う
3. 自分の考えで行動できる力を養う
4. チームワークの大切さを知る
5. お金の大切さを実感する

参加者数

58名 累計 773名

顧客満足度

- ① 会社の仕組みを理解することができた 85%
- ② 3日間を通じて、「できた」と思えることが
つくれたか 87%
- ③ お金に対するイメージが変わった 83%

<保護者アンケート> 非常に満足 89%
満足 7%



参加者の声

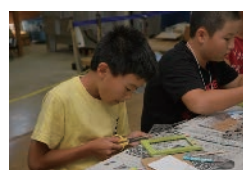
- ・お金の大切さ会社のきびしさがすごく分かったから、また参加したい。
- ・社長は、最初はあまり自信がなかったけど、やってみて大変だし、でもおもしろかったです。
- ・思っていたよりも、接客がむずかしかったから、てこずった。
- ・製造マネージャーは、みんなに分かりやすく説明するのが難しかった。

保護者の声

- ・大学生と一緒に活動できるのも大変貴重な体験でした。
- ・子どもがいきいきとした表情をしていたので満足です。学校では教えてくれないことが体験できた。
- ・帰宅後本人から多くの話を聞く事が出来満足感を親としても実感できた。

事業概要

	開催日	内容
1日目	平成30年8月24日(金)	・会社設立 ・事業計画書作成
2日目	平成30年8月25日(土)	・融資交渉 ・材料仕入れ ・商品製造
3日目	平成30年8月26日(日)	・販売 ・決算 ・報告会 ・修了式



2-10

人材育成

SIC アントレ・インターンシップ

事業の目的

さがみはら子どもアントレプレナー体験事業の企画運営を通して、『既成の固定概念に捉われることなく、新たな領域に、自ら考え出したアイデアで、失敗を恐れずに挑戦する気概に溢れた人材』とは何かを理解するとともに、実社会において社会人としてどうあるべきかを学ぶ。



参加者数 1名 累計140名



参加者の声（アントレ・インターンを一言で言うと。16期生へのメッセージ）

- ・「本当のインターンシップ 最強のインターンシップ」
芯が強くなるインターンシップです。具体的には会社で仕事を行うときに使うPDCA等、将来だけでなく、学校生活などでも使えることを教えてもらいます。正直ここで教えてもらえることをマスターしたら最強になります。



事業概要

毎年8月に開催する「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」の企画運営を大学生が中心となって行うものです。

	開催日	内容	概要
1	平成30年 6月 9日（土）	キックオフ	経営者講演、ビジネスマナー研修
2	平成30年 6月～8月	企画・準備	企画、準備を行う
3	平成30年 6月17日（日）	商品企画研修	参加者が商品製造の際、想像力を引き出すような商品選びの工夫を学ぶ
4	平成30年 7月 1日（日）	コーチング研修	子どもの考えや思いの引き出し方を学ぶ
5	平成30年 8月24日（金） ～26日（日）	子どもアントレ	小学生に会社経営の疑似体験プログラムを提供する
6	平成30年11月 2日（金）	アントレ実施結果報告、修了式	子どもアントレの実施結果を報告



2-11

人材育成

サガツクナビ（地元企業と学生との出会いをつなぐ）

事業の目的

“地元企業の採用の円滑化”と“地元で働きたい学生の就職の円滑化”を目指して、神奈川県県央地域、東京都多摩地域をフィールドに定め、地元企業の魅力を伝えるイベントとインターネットでの企業情報発信の両輪で地元企業と学生の出会いの場を創出し、新卒採用（就職）のサポートをする。



実績

サガツクナビサイトへのアクセス状況：セッション数 15,367、訪問ユーザー数 10,116、ページビュー数 72,488 ページ
メールマガジン配信回数 40 回（受信者総数 3,609 名：学生 1,741 名、就職課 1,052 名、企業 816 名）
合同就職説明会 3 回開催、企業 37 社、学生 29 名
個別相談会 学生 28 名
企業と学生（教職員）の相互理解サポート 13 回開催、企業 36 社、学生 182 名、教職員 2 名



情報発信

ウェブサイトやメルマガなどによる情報発信

- ①サガツクナビサイトにて地元企業やイベント情報などを発信
- ②メールマガジン「サガツクナビ通信」の配信
- ③Facebook での情報発信

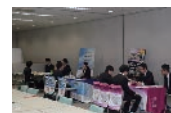


イベント

<採用&就活サポート>

- ①ジョブミーツ（合同就職説明会）
- ②学内合同説明会（サレジオ高専、専修大学）
- ③ジョブサポート（充実した就職活動となるよう就活生等に対する個別相談会）

ジョブミーツ



<企業と学生（教職員）の相互理解サポート>

- ①KAIMAMI シリーズ（自分の知らない世界を垣間見る）

企業見学ツアー

就活体験談を聞く会（学生向け、企業向け）

サレジオ『インターンシップ参加準備に向けた業種研究セミナー』
（デザイン学科、電気工学科、情報工学科）

サレジオ（機械電子工学科 3 年生）と

地元の優良企業との交流会『キャリアデー』

ジョブトーク



- ②ジョブトーク（学生と企業の交流会）
- ③企業取材（学生目線による地元企業の魅力配信
（取材協力：さがまち学生 Club））

- ④さがまち就活塾

- ⑤仕事探求セミナー

就活体験談を聞く会



2-12

販路開拓

海外販路開拓支援事業（台湾ビジネスサポート事業）

事業の目的

地域企業が継続的に発展するために海外展開をサポートする。海外へ比較的強い販売力を持つ企業が多く、日本とのビジネスの実績が十分にある「台湾」で、或いは台湾経由による中国大陆や東南アジアなどの国々でビジネスを発展・成長させていく。

事業内容

個社支援

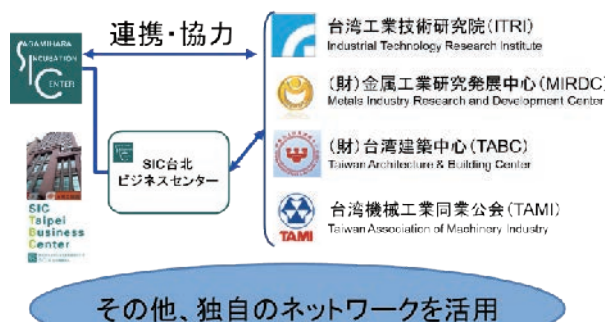
- ・有機 EL 関連装置の台湾販路開拓相談
- ・日用雑貨の台湾販路開拓相談（商談サポート～取引成立～販売開始に至るまで）
- ・EV バイク用モータ関連部品の試作開発から量産まで対応可能な台湾 OEM 企業探索の相談
- ・EV 自動車用制御機器の試作開発から量産まで対応可能な台湾 OEM 企業探索の相談
- ・EV 自動車用モータ関連部品の試作開発から量産まで対応可能な台湾 OEM 企業探索の相談
- ・EV 自動車用部品の金型試作及び量産まで対応可能な台湾 OEM 企業探索の相談
- ・電子機器の台湾ショールーム展示相談
- ・健康食品の台湾販路開拓相談
- ・建築材料の台湾販路開拓相談
- ・業務委託契約書の中国語翻訳相談
- ・電子機器筐体の量産対応可能な台湾 OEM 企業探索の相談
- ・印刷関連装置を製造している台湾企業からの現場カイゼンの相談



顧客の声

- ・受託開発や OEM 生産、販路開拓など受発注先が見つかった。
- ・大手企業との提携を実現できた。
- ・海外現地法人を設立するきっかけづくりになった。
- ・素早い意思決定や行動力とそれを実現する組織づくりの重要性を知った。
- ・自社の技術や製品が海外でも十分に通用することが分かった。

運営体制



3-1

さがみはら産業創造センターの歩み

1998 年度 (平成 10 年度)	・検討会の提言…市内の若手経営者、相模原市などの若手スタッフによる検討会が相模原市にセンター整備を提言
1999 年度 (平成 11 年度)	・会社設立…相模原市、相模原商工会議所及び新事業創出促進法に基き地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）が出資し会社設立 ・増資…地元企業や地域金融機関などが出資 ・第 1 回女性起業家育成セミナー開催
2000 年度 (平成 12 年度)	・S I C-1（インキュベーションセンター）オープン ・第 1 回ビジネスプランコンテスト開催
2001 年度 (平成 13 年度)	・第 1 回さがみはら子どもアントレプレナー体験事業開催 ・増資…相模原市、地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）、地元企業が出資
2002 年度 (平成 14 年度)	・S I C-2（ポストインキュベーションセンター）オープン ・女子美術大学と「ヒューマンデザイン開発支援事業」に関する協定を締結、中小企業のデザインを支援するデザイン開発支援事業を開始 ・経済産業省から「即効型地域新生コンソーシアム事業」を受託 ・第 1 回「S I C 経営塾」開講
2003 年度 (平成 15 年度)	・職業能力開発総合大学校と「地域企業活性化支援事業」に関する協定を締結 ・八千代銀行（現きらぼし銀行）と「起業家支援事業」に関する協定を締結 ・地域企業 450 社の実態調査を実施
2004 年度 (平成 16 年度)	・神奈川工科大学と「産学連携事業」に関する協定を締結 ・第 1 回「S I C アントレ・インターンシップ」開講 ・かわらばん（入居企業版）創刊号発行
2005 年度 (平成 17 年度)	・S I C 1 号投資事業有限責任組合（S I C ファンド）を組成 ・神奈川県「新産業創出拠点形成促進事業」を受託 ・S I C 燃料電池研究会が発足 ・第 1 回 SIC 起業家塾開講
2006 年度 (平成 18 年度)	・相模原市から「首都圏南西地域産業活性化フォーラム」の運営を受託
2007 年度 (平成 19 年度)	・第 1 回職場リーダー塾開講 ・SPS 研究会が発足
2008 年度 (平成 20 年度)	・株式会社カイゼン・マイスターと業務提携し、地元企業向けのカイゼン支援を開始 ・かわらばん（地域企業版）創刊号発行
2009 年度 (平成 21 年度)	・さがみはら企業力支援事業を開始、併せてメンター（経営指導者）制度を創設 ・緊急雇用事業を相模原市から受託し、大規模な市内企業実態調査や産業界の人づくり支援事業などの人材育成に取り組む ・経済産業省から「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」を受託
2010 年度 (平成 22 年度)	・さがみはら表面技術研究所オープン ・インキュベーション型シェアードオフィス「DESK®」オープン ・第 1 回台湾ビジネスマッチングを開催
2011 年度 (平成 23 年度)	・台湾工業技術研究院 (ITRI) と連携協定を締結 ・S I C-3（イノベーションラボ）オープン ・S I C 台湾ビジネスセンターオープン ・経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」を受託 ・企業紹介冊子「おもしろ企業の魅力拝見！」出版 ・地域発信冊子「韮尾根のブルーベリー」発行
2012 年度 (平成 24 年度)	・神奈川県「かながわ環境関連産業ネットワーク事業」等を受託 ・経済産業省「高度実践型支援人材育成事業」を受託 ・インキュベーションセンター「T-BISC」、「MBDA」の計画 ・運営サポートを受託・第 1 回南西フォーラムビジネスマッチング開催 ・SIC 台湾ビジネスサポート事業開始 ・第 1 回 SIC カイゼン研究会（現 SIC カイゼン・スクール）開講
2013 年度 (平成 25 年度)	・財団法人台湾建築中心（TABC）及び財団法人金属工業研究発展中心（MIRDC）と連携協定を締結 ・神奈川県「かながわ成長産業イノベーション事業」を受託
2014 年度 (平成 26 年度)	・地域密着型就職支援事業「サガツク」を開始 ・全国中小企業団体中央会「ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業」受託 ・神奈川県「ロボット実証実験支援事業」重点プロジェクト委員会事務局を担う
2015 年度 (平成 27 年度)	・相模原市から産業用ロボット導入支援事業を受託し、さがみはらロボット導入支援センターをオープン ・神奈川県「成長産業育成支援事業」を受託
2016 年度 (平成 28 年度)	・「みんなで一人前の社会人になる研修」を開始 ・相模原市と連携する大和市・座間市・寒川町から産業用ロボット導入支援事業を受託 ・綾瀬市商工会からビジネスマッチング事業を受託
2017 年度 (平成 29 年度)	・神奈川県「成長ベンチャー情報発信事業」受託 ・台湾工業技術研究院 (ITRI)、財団法人金属工業研究発展中心 (MIRDC) と連携協定を更新
2018 年度 (平成 30 年度)	・S I C-2 R&D Lab. 着工 ・World Robot Challenge 2018 に市内企業等で Team SAGAMIHARA を結成し参加

3-2

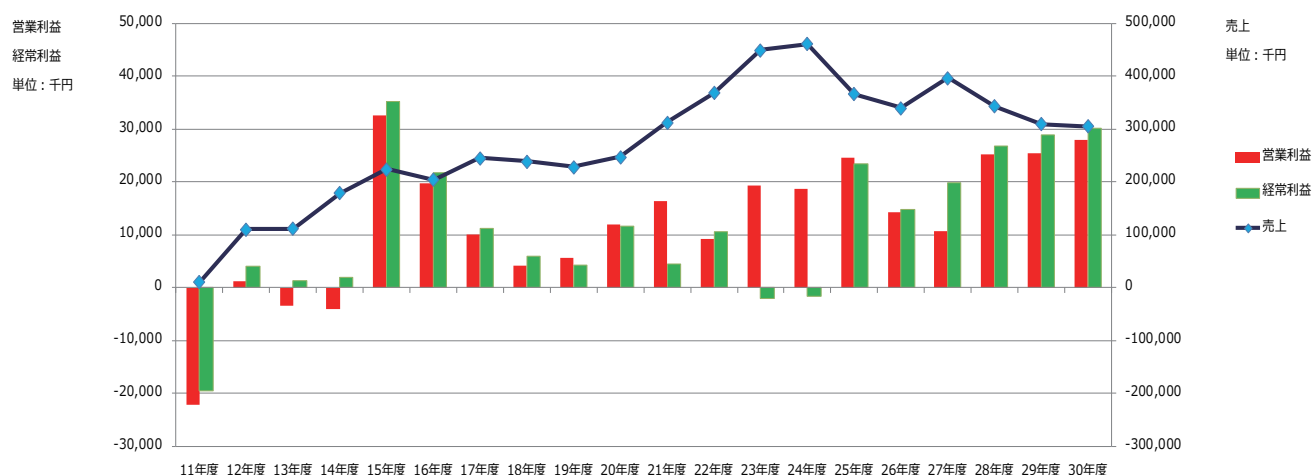
主な事業と開始年度（カテゴリー別）

年 度	ラボ・オフィス	経営サポート	技術開発	人材育成	資金調達	販路開拓
1999年度 (平成11年度)		・ビジネスプランコンテスト	・新規成長産業連携支援事業	・女性起業家育成セミナー		
2000年度 (平成12年度)	S I C - 1 オープン	・株式公開塾 ・入居企業セミナー	・中小企業のための技術セミナー			
2001年度 (平成13年度)			・ミニコンソーシアム事業	・さがみはら子どもアントレプレナー体験事業（小学生）		
2002年度 (平成14年度)	S I C - 2 オープン	・アントレフォスター事業 ・中小企業のデザイン開発支援	・経済産業省「即効型地域新生コンソーシアム」受託	・SIC 経営塾・さがみはら子どもアントレプレナー体験事業（中高生）		・KSPベンチャーマッチング商談会に参画
2003年度 (平成15年度)		・八千代起業家支援プログラム ・地域企業実態調査(450社)	・大学シーズ調査	・SIC 経営者セミナー		
2004年度 (平成16年度)		・さがみはら青年アントレプレナープロデュース事業 ・かわらばん（入居企業版）創刊号発行	・新技術創造研究会	・SIC アントレ・インターン		
2005年度 (平成17年度)			・神奈川県「新産業創出拠点形成促進事業」受託 ・燃料電池研究会発足	・SIC 起業家塾	・SIC1号投資事業有限責任組合組成	
2006年度 (平成18年度)		・チャレンジショップ	・「首都圏南西地域産業活性化フォーラム」受託	・SIC 起業家育成大学校	・入居企業4社、地域企業3社に出資	
2007年度 (平成19年度)			・SPS研究会	・SIC 職場リーダー養成塾	・入居企業1社、地域企業2社に出資	
2008年度 (平成20年度)		・中小企業のカイゼン活動支援 ・かわらばん（地域企業版）創刊号発行	・実用化開発支援		・入居企業1社に出資	・SIC テクノロジーマッチング ・KSP 協創マッチングフォーラムに参画
2009年度 (平成21年度)		・メンター制度 ・さがみはら企業力支援事業 ・地域企業実態調査（500社）	・経済産業省「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」受託	・地域産業界の人づくり支援事業 ・さがみはら未来塾 ・ベンチャー・中小企業人材確保支援事業		
2010年度 (平成22年度)	DESK® オープン	・ソーシャルビジネス創育支援事業	・高度研究人材活用事業（さがみはら表面技術研究所） ・神奈川県バイオベンチャー人材活用事業			・台湾ビジネスマッチング開催 ・川崎市産業振興財団新事業マッチングフォーラム参画
2011年度 (平成23年度)	S I C - 3 オープン	・企業紹介冊子「おもしろ企業の魅力拝見！」出版 ・地域発信冊子「葎尾根のブルーベリー」発行	・経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」受託 ・新製品開発のための「協創プロジェクト」 ・相模原市から「新技術実用化コンソーシアム形成支援事業」受託	・ISB 公共未来塾		・台湾工業技術研究院と協定 ・SIC 台湾ビジネスセンターオープン
2012年度 (平成24年度)	「T-BISC」、 「MBDA」の 計画・運営サポート	・地域発信冊子「里山コミュニティ」発行 ・企業紹介冊子「い〜コトなび」発行	・神奈川県「かながわ環境関連産業ネットワーク事業」受託	・SIC カイゼン研究会 ・経済産業省「高度実践型支援人材育成事業」 ・女性力発揮セミナー ・子どもワークショップ		・日本台湾アライアンスセミナー ・南西フォーラムビジネスマッチング
2013年度 (平成25年度)			・可搬型燃料電池・飲料水供給装置の開発	・SIC カイゼンスクール		・財団法人台湾建築中心、財団法人金属工業研究発展中心と連携協定を締結 ・日台環境・建築ビジネスマッチングを開催
2014年度 (平成26年度)			・全国中小企業団体中央会「ものづくり中小企業・規模事業者連携支援事業」 ・神奈川県「ロボット実証実験支援事業」重点プロジェクト事業	・「サガツクナビ」ポータルサイト		
2015年度 (平成27年度)			・相模原市「産業用ロボット導入支援事業」「コンソーシアム加速化支援事業」受託 ・神奈川県「成長産業育成支援事業」受託			
2016年度 (平成28年度)				・「みんなで一人前の社会人になる研修」	・SIC1号投資事業有限責任組合解散	
2017年度 (平成29年度)			・神奈川県「成長ベンチャー情報発信事業」受託			・日台ものづくり 企業ビジネス交流ツアー
2018年度 (平成30年度)	S I C - 2 増築棟起工式					

3-3

財務状況

P／L 推移

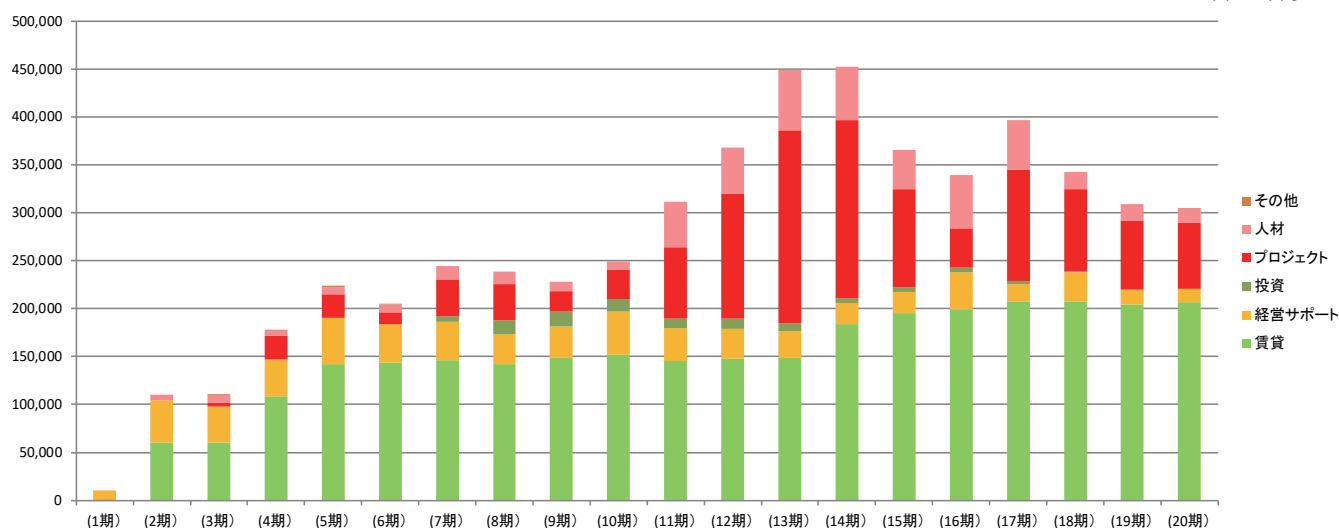


	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)	25年度 (15期)	26年度 (16期)	27年度 (17期)	28年度 (18期)	29年度 (19期)	30年度 (20期)
売上	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,221	452,739	365,658	339,759	396,465	342,657	309,168	305,449
営業利益	-22,122	1,257	-3,455	-4,101	32,523	19,804	9,914	4,219	5,620	11,946	16,397	9,080	19,283	18,649	24,640	14,298	10,548	25,278	25,445	27,926
経常利益	-19,522	3,922	1,256	1,817	35,141	-21,656	11,200	5,910	4,242	11,604	4,514	10,568	-2,082	-1,641	23,436	14,711	19,727	26,860	28,937	30,221

単位：千円

事業別売上高の推移

単位：千円



単位：千円

	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)	25年度 (15期)	26年度 (16期)	27年度 (17期)	28年度 (18期)	29年度 (19期)	30年度 (20期)
貸貨	0	60,473	60,622	108,655	142,026	143,982	145,990	142,525	148,914	151,930	145,552	147,969	148,705	184,290	195,181	199,726	207,547	207,790	204,049	206,749
経営サポート	10,429	44,344	37,125	38,379	48,475	39,669	40,038	30,769	32,709	45,225	34,042	31,402	28,039	21,837	22,348	38,000	18,204	30,010	15,758	14,132
投資	0	0	0	0	0	0	6,250	15,000	15,000	12,915	9,999	10,000	7,917	5,000	5,000	5,000	3,250	750	0	0
プロジェクト	0	0	4,130	24,713	24,744	12,530	38,545	37,595	21,655	30,258	74,868	130,200	201,456	185,723	102,340	41,195	116,116	85,967	72,519	68,249
人材	0	5,447	8,629	6,576	6,785	7,809	13,699	12,922	9,525	8,969	47,363	48,574	63,105	55,889	40,788	55,837	51,349	18,140	16,841	16,318
その他	0	0	502	0	2,240	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
売上合計	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,222	452,739	365,658	339,759	396,466	342,657	309,168	305,449

3-4

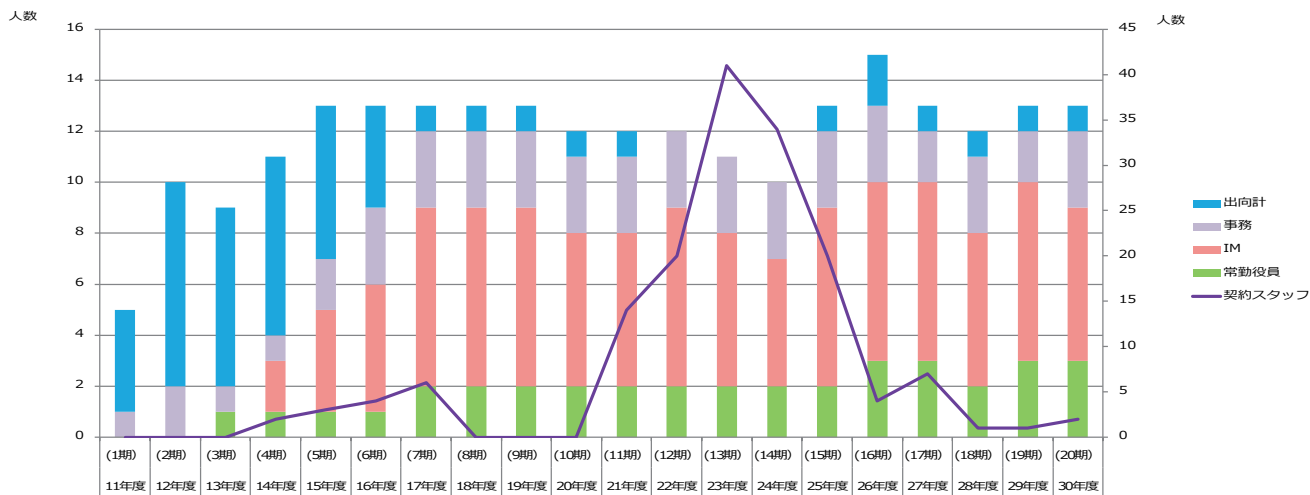
競争的資金の獲得

単位：千円

年 度	資金獲得先	事 業 名	資 金 額
平成 14 年度	経済産業省	即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業 「次世代デバイス用超高精度ナノレベル研磨・洗浄複合装置の開発」	40,000
平成 17 年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」	20,000
平成 18 年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」	22,000
平成 20 年度	中小機構	川上川下ネットワーク構築支援事業 「次世代エネルギーシステムの早期実用化ネットワーク構築」	25,600
		新現役チャレンジ支援事業 「新現役人材による中小企業支援のモデル事業としてカイゼン支援プログラム開発」	
		ビジネス・インキュベータ（BI）における広域的ネットワーク構築の調査事業 「グループインキュベーション」手法の開発と検証 ―ネットワークによる支援と手法のネットワーク化―	
		ベンチャー創出促進モデルプロジェクト事業 「動物病院医療市場を対象とした犬のアレルギー及び免疫検査受託事業」 「静電エンコーダの事業化」	
平成 21 年度	経済産業省	低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業 「太陽光雨水などの自然の恵みを有効活用した安全・安心な低炭素社会システムの構築」	64,000
平成 22 年度	経済産業省	中小企業海外販路開拓支援事業（台湾ビジネスマッチング） 「神奈川県ビジネス・インキュベータ連携による IT／エレクトロニクス分野 研究関連型ベンチャー企業の海外販路支援事業」	11,500
平成 23 年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」	7,000
	中小機構	BI ネットワーク構築事業 「T-BISC の整備に協調・連携した国内外ビジネスマッチング事業」	
	神奈川県	新産業ベンチャー事業化支援事業 「生物機能制御・改善のための体内時計調節剤及び関連試薬の開発」	
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」	
平成 24 年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」 高度実践型支援人材育成事業	101,700
	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわエネルギー関連ベンチャーマッチング・パートナーリング支援事業	
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」	
平成 25 年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業	8,000
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成事業 「表面形状を制御した医療用機能部品の要素開発」	
平成 26 年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわ成長産業イノベーション事業	33,900
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成事業 「ハーブ等植物の家庭用高効率栽培システムの開発」	
平成 27 年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわ成長産業育成支援事業	21,470
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「ハーブ等植物の家庭用高効率栽培システムの開発」	
		コンソーシアム加速化支援事業	
平成 28 年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわ成長産業育成支援事業	17,770
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「商店街の安全性向上・活性化を目指したハイパー自販機の開発」	
平成 29 年度	神奈川県	成長ベンチャー情報発信事業 [エネルギー及び IT 分野]	6,480
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「商店街の安全性向上・活性化を目指したハイパー自販機の開発」	
平成 30 年度	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「商店街の安全性向上・活性化を目指したハイパー自販機の開発」	2,777

3-5

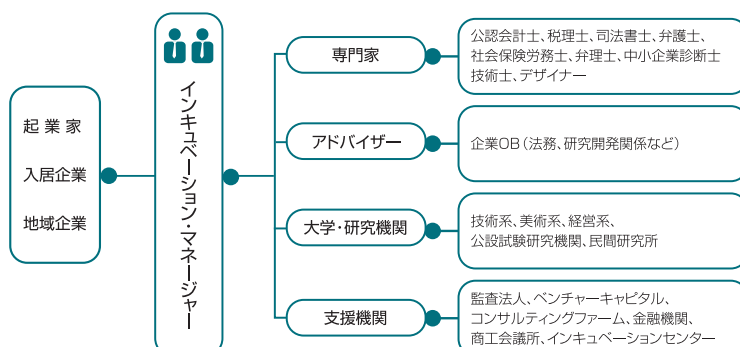
スタッフ数の変遷



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)	25年度 (15期)	26年度 (16期)	27年度 (17期)	28年度 (18期)	29年度 (19期)	30年度 (20期)
常 勤 役 員	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	3	3
非 常 勤 役 員	13	13	13	13	15	15	13	12	11	10	10	10	11	11	12	13	12	12	12	12
IM	0	0	0	2	4	5	7	7	7	6	6	7	6	5	7	7	7	6	7	6
事 務	1	2	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3
相 模 原 市 から 出 向	3	5	5	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中 小 機 構 から の 出 向	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銀 行 から の 出 向	1	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	1	1	1
出 向 計	4	8	7	7	6	4	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	1	1	1
計	5	10	8	10	12	12	11	11	11	10	10	10	9	8	11	12	12	10	10	10
契 約 ス タ ッ フ	0	0	0	2	3	4	6	0	0	0	14	20	41	34	20	4	7	1	1	2
パ ー ト タ イ マ ー	0	1	1	4	2	2	4	3	1	1	1	1	3	3	3	4	3	3	5	2

3-6

支援ネットワーク



3-7

視察・研修

平成 30 年度 国内

名 称
視 察
岩手県加賀市、東京都中小企業振興公社、和歌山県工業技術センター、郡山地域テクノポリス推進機構、つくば研究支援センター、関東経済産業局次世代情報課、県内産業支援機関、経済産業省経済産業政策局、ひたちなかテクノセンター、浜松地域イノベーション機構、南相馬市、堺市、おもしろ科学クラブ、南相馬ロボット産業協議会、宮津商工会議所、浜松地域イノベーション機構、茅ヶ崎商工会議所、やまなしIoT推進ラボ、山梨県産業支援機構
研 修
IM養成研修 インキュベータ実習

海外

年 度	名 称	
平成 17 年度	チュニジアベンチャーキャピタル協会 海外技術者研修	チュニジア アジア、アフリカ諸国
平成 19 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA） モンゴル中小企業振興研修	アジア、アフリカ、中東、中南米諸国 モンゴル
平成 20 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA）	アジア、オセアニア、アフリカ諸国
平成 21 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA） 韓国インキュベーションスタッフ研修	アジア、オセアニア、アフリカ諸国 韓国
平成 22 年度	オマーン技術大学指導員研修、無錫市政府 マレーシア国職業訓練校指導員研修	オマーン、中国 マレーシア
平成 23 年度	工業技術研究院、中国山東省（対日投資）視察団	台湾、中国
平成 24 年度	中小企業支援法制度検討視察（JICA） 国際企業人材育成センター日本語プログラム研修（台湾貿易センター）	ベトナム 台湾
平成 25 年度	アフリカ地域女性起業家支援セミナー（JICA） 台湾工業技術研究院 産業経済與趨勢研究中心	アフリカ諸国 台湾
平成 26 年度	シンガポール国立大学	シンガポール
平成 27 年度	法政大学（欧州産学連携研究者視察団）、トロント市議会 中国 無錫市、韓国技術ベンチャー財団 行政院世界企業誘致総合サービスセンター、工業技術研究院 台北市コンピュータ協会 アメリカ オースティンアジア商工会、タイ対日技術振興協会	欧州、カナダ 中国、韓国 台湾 台湾 アメリカ、タイ
平成 28 年度	スリランカソフトウェアサービス協会	スリランカ
平成 29 年度	台湾手工具工業同業公会 韓国生産性本部、韓国技術ベンチャー財団・企業、 韓国創業振興院 ドイツロボット関連企業視察団、JETROトロント 中国ロボット関連企業視察団	台湾 韓国 ドイツ、カナダ 中国
平成 30 年度	ベトナム政府及び中小企業支援機関、オンタリオ州東京事務所、 タイ王国科学技術庁、泰日工業大学、韓国技術ベンチャー財団、 JETROトロント、中国・遼寧省経済視察団	中国、 タイ、韓国 アメリカ、中国

3-8

新聞掲載（30年度）

年月日	新聞名	表 題
2018.04.26	建通新聞	SIC-2 を増築
2018.07.11	日刊工業新聞	さがみロボット産業特区
2018.08.08	日刊工業新聞	トヨタ「カイゼン」中小向け講座
2018.08.10	相模経済新聞	「カイゼン」学ぶスクールが開講
2018.09.10	相模経済新聞	産業用ロボで来月2日開催
2018.09.14	日刊工業新聞	産ロボビジネスフォーラム開催
2018.10.05	日刊工業新聞	産ロボビジネスフォーラム開催
2018.10.10	相模経済新聞	国際ロボ競技会に出場
2018.10.10	相模経済新聞	産ロボフォーラム開催 「Sler」に焦点
2018.10.10	かながわ経済新聞	Team SAGAMIHARA 連携して WRC 出場
2018.10.11	日刊工業新聞	WRC 出場チーム紹介
2018.10.11	日刊工業新聞	未来を創造する
2018.11.20	相模経済新聞	SIC セミナー開催 IT と働き方改革
2018.12.20	日刊工業新聞	相模原の中小と経済交流実施 タイ政府機関
2019.01.23	日刊工業新聞	増築棟の入居募集
2019.01.23	日刊工業新聞Web	増築棟の入居募集
2019.01.25	神奈川新聞	地域の産業けん引を ロボットなど入居企業募集
2019.01.25	日刊工業新聞	産ロボ見学会 子ども向け開催
2019.01.25	日刊工業新聞Web	相模原市など、子ども向け産ロボ見学会開催
2019.02.01	相模経済新聞	増築棟で希望増に対応 成長分野中心に入居募集
2019.02.10	かながわ経済新聞	SIC 成長産業育成で新棟
2019.03.15	神奈川新聞	企業支援座談会（上） IT 活用し課題解決
2019.03.26	神奈川新聞	企業支援座談会（下） 挑戦しやすい社会へ

3-9

広報紙 「かわらばん」の発行

▶ SICかわらばん（入居企業版） 内容：入居企業紹介、セミナー等情報提供等

入居企業様と入居企業様そして当センターとのコミュニケーションの促進を図る為に、新しく入居された企業様のご紹介や入居企業交流会、当センターの開催事業、施設関係の細やかなご案内など、当センターでより快適にご入居頂ける事を目的に毎月発行しています。

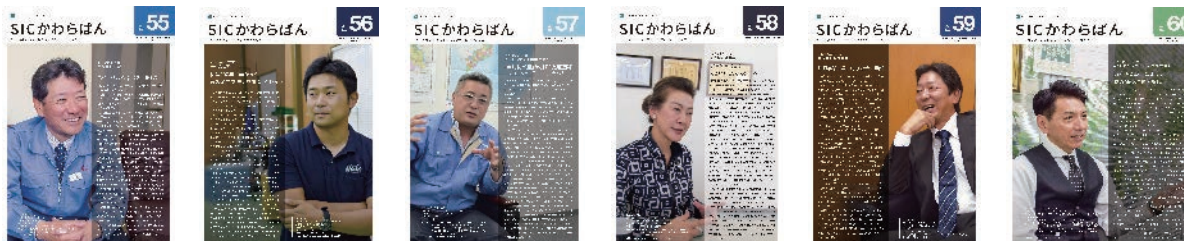
発行No.	発行日	紹介企業名（入居企業）他
No. 167	平成 30 年 4 月 2 日	ミクロ吸盤応用研究所
No. 168	平成 30 年 5 月 1 日	株式会社 C I E L
No. 169	平成 30 年 6 月 1 日	株式会社同位体研究所
No. 170	平成 30 年 7 月 2 日	I G N I T E 株式会社
No. 171	平成 30 年 8 月 1 日	株式会社ファストリンクテック
No. 172	平成 30 年 9 月 3 日	芙蓉実業株式会社
No. 173	平成 30 年 10 月 1 日	国際アニマルコミュニケーションスクール
No. 174	平成 30 年 11 月 1 日	株式会社グリーンノート
No. 175	平成 30 年 12 月 3 日	エクスレイ・システムズ株式会社
No. 176	平成 31 年 1 月 7 日	新年のご挨拶
No. 177	平成 31 年 2 月 1 日	株式会社ボード・プランニング
No. 178	平成 31 年 3 月 1 日	R o n k ジャパン株式会社



▶ SICかわらばん（地域企業版） 内容：地域企業紹介、入居企業紹介、特集記事、セミナー等情報提供、地元紹介等

地域企業様と当センター、地域企業様と入居企業様、地域企業様と地域企業様を繋ぐコミュニケーションツールとして、入居企業様や地域企業様に親しまれ、企業の皆さまにより良い情報をお届けすることを目的に隔月発行しています。

発行No.	発行日	紹介企業名（地域企業）	紹介企業名（入居企業）	企画ページ
No. 55	平成 30 年 5 月 15 日	大島機工株式会社	マイクロエッチプロセス株式会社	企業をサポートし隊 第 6 回 「賃貸事業」
No. 56	平成 30 年 7 月 15 日	株式会社石井	ノーベルファーマ株式会社	企業をサポートし隊 第 7 回 「SIC の新たな拠点の整備」
No. 57	平成 30 年 9 月 15 日	ノーブル電子工業株式会社	株式会社イノウエ	企業をサポートし隊 第 8 回 「地域での産業創出の取り組み」
No. 58	平成 30 年 11 月 15 日	株式会社旭商会	ハイテクインター株式会社	企業をサポートし隊 第 9 回 「次代を担う人材の育成と採用に関する事業」
No. 59	平成 31 年 1 月 15 日	古木建設株式会社	株式会社アド・ソアー	年頭挨拶
No. 60	平成 31 年 3 月 15 日	AZAエンジニアリング株式会社	株式会社 C I E L	企業をサポートし隊 第 10 回 「産業支援機関の地域連携」



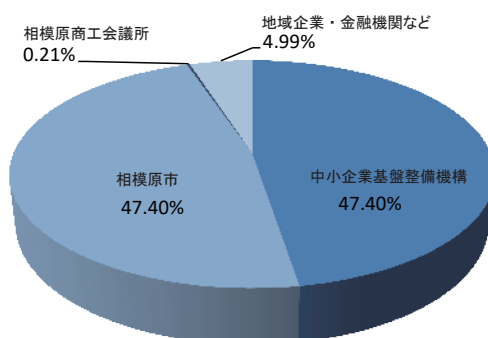
3-10

株主と役員

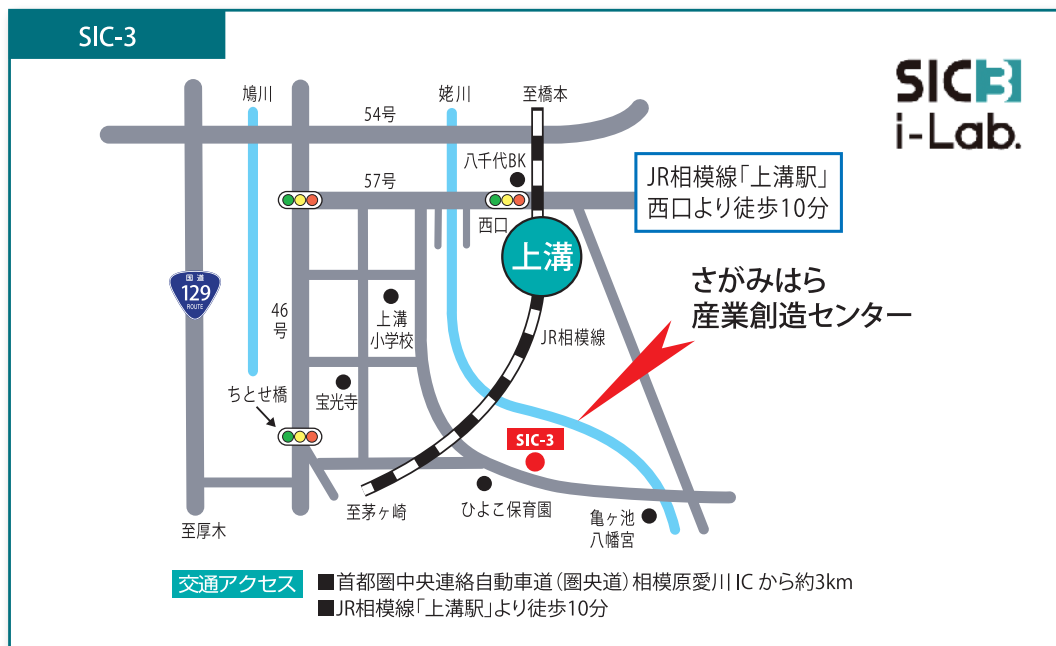
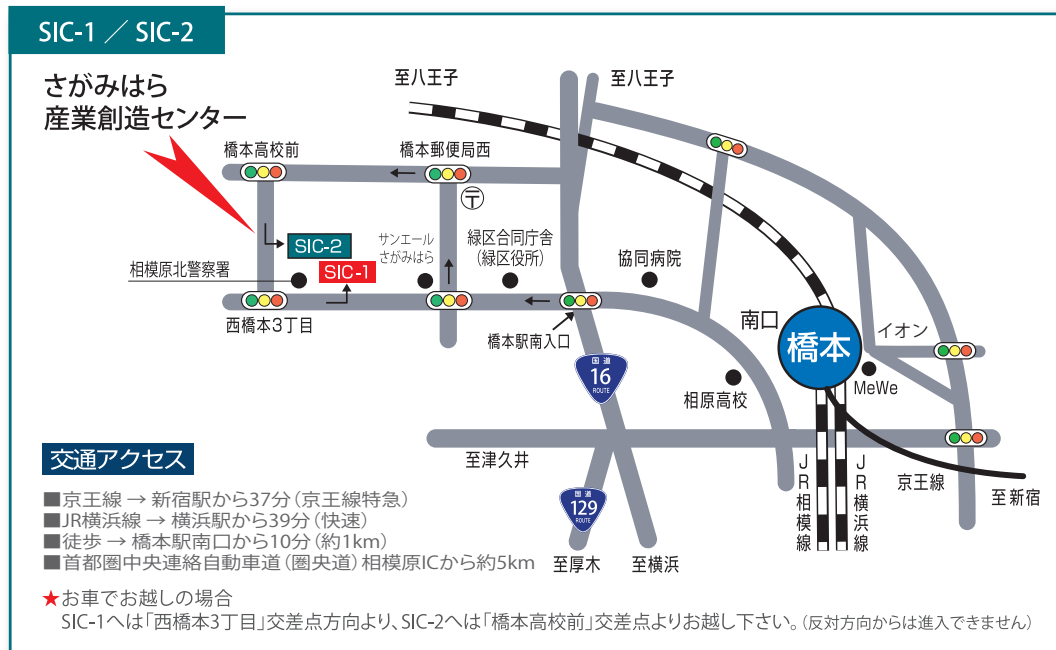
株主数：31 社（者） 発行済株式の総数：47,890 株 資本金：23 億 9,450 万円

相模原市	独立行政法人中小企業基盤整備機構
株式会社ボイス	株式会社ハリマビシステム
古木建設株式会社	株式会社八千代銀行
株式会社横浜銀行	西武信用金庫
湘南デザイン株式会社	株式会社三菱東京UFJ銀行
相模原商工会議所	日本テクノ株式会社
城山工業株式会社	日本電子工業株式会社
三菱重工エンジン&ターボチャージャ株式会社	権田金属工業株式会社
株式会社相模運輸	相模原市農業協同組合
相模ガス株式会社	株式会社昭和真空
株式会社ア・ドマニー	篠崎電業株式会社
タイヨー印刷株式会社	東京海上日動火災保険株式会社
東邦電子株式会社	野村 隆
ブックオフコーポレーション株式会社	アイシンク株式会社
Apex 株式会社	

構成割合



代表取締役 取締役	橋元 雅敏	
	安藤 重夫	
	稲垣 英孝	
	吉田 修一	(株式会社相模運輸 代表取締役)
	山崎 利宏	(城山工業株式会社 代表取締役)
	西澤 勇司	(株式会社キャロットシステムズ 代表取締役)
	杉本 祥一	(株式会社ハイスポット 代表取締役)
	早川 正彦	(有限会社早川銘板製作所 代表取締役)
	佐々木 亮一	(株式会社ライト 代表取締役)
	岩本 晃	(相模原市 環境経済局 経済部長)
監査役	久保田 修	(相模原商工会議所 中小企業振興部長)
	石川 幸二	
	原田 恒敏	(公認会計士原田恒敏事務所 代表)
	平田 光子	(日本大学 生産工学部 マネジメント工学科/生産工学研究科 教授)
	若林 浩之	(株式会社横浜銀行 相模原駅前支店長)
	佐々木 一彦	(株式会社八千代銀行 相模原法人営業部 部長)



株式会社さがみはら産業創造センター
Sagamihara Incubation Center Ltd.(SIC)

SIC-1 / SIC-2

〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本5-4-21

SIC-3

〒252-0243 神奈川県相模原市中央区上溝1880番-2

Tel:042-770-9119(代) Fax:042-770-9077
URL <https://www.sic-sagamihara.jp>